

41297

教科書文庫

4

610

31-1941

2000
61722

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

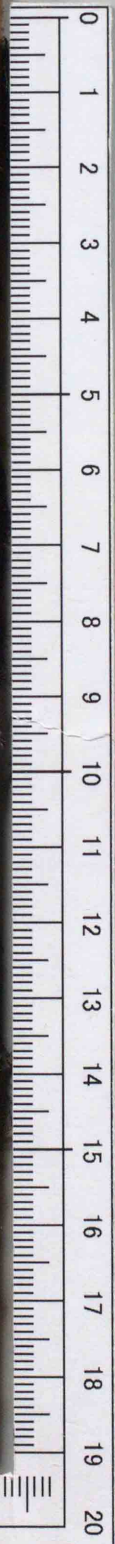
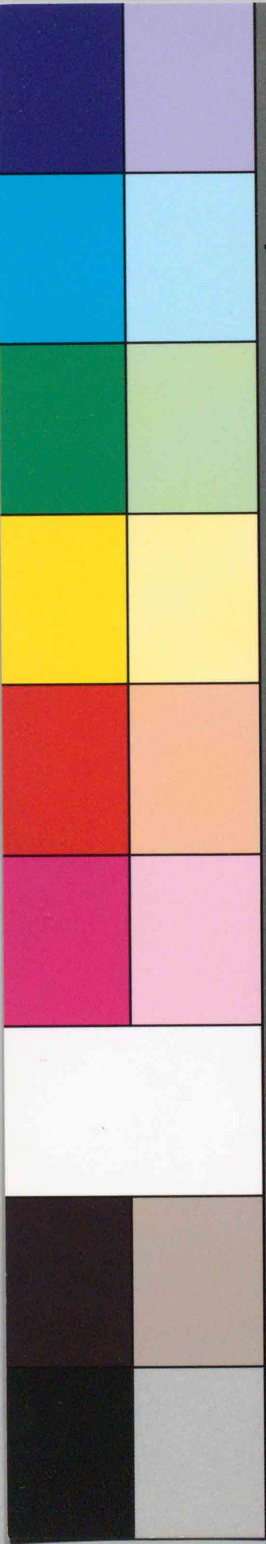
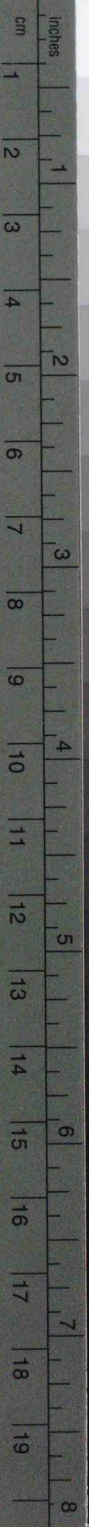


© Kodak 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak 2007 TM: Kodak



3a
610
RB16

小學農業書 卷一

男子用

文部省



資料室

小學農業書

男子用

文部省

卷一



32
610
BB16

目 録

第一課	農業……………	一	第十二課	芋類……………	十四
第二課	時無大根……………	二	第十三課	百合……………	十五
第三課	種子の良否……………	三	第十四課	朝顔……………	十七
第四課	選種……………	三	第十五課	胡瓜及び南瓜……………	十八
第五課	種子の發芽……………	五	第十六課	茄及び蕃茄……………	二十
第六課	播種の時期……………	五	第十七課	植方の深淺……………	二十四
第七課	整地……………	六	第十八課	苺……………	二十四
第八課	整地用農具……………	七	第十九課	西瓜及び甜瓜……………	二十六
第九課	土壤の種類……………	十	第二十課	瓜類の害蟲……………	二十八
第十課	施肥……………	十一	第二十一課	瓜類の病……………	二十八
第十一課	甘藷及び馬鈴薯……………	十二	第二十二課	果菜類……………	二十九

第二十三課	大豆	三十一	第三十六課	養鶏	四十九
第二十四課	豆類	三十二	第三十七課	鶏卵の孵化	五十三
第二十五課	雑草と除草	三十二	第三十八課	育雛	五十四
第二十六課	大根及び蕪菁	三十四	第三十九課	菊	五十五
第二十七課	牛蒡及び胡蘿蔔	三十六	第四十課	庭園及び花壇	五十七
第二十八課	根菜類	三十八	第四十一課	蘭	六十
第二十九課	菘類	三十九	第四十二課	二毛作	六十一
第三十課	甘藍	四十	第四十三課	油菜	六十一
第三十一課	菘類及び大根の害虫	四十一	第四十四課	麥類	六十二
第三十二課	葱及び玉葱	四十三	第四十五課	播種の方式	六十五
第三十三課	葉菜類	四十六	第四十六課	速効肥料と遅効肥料	六十五
第三十四課	日光	四十七	第四十七課	麥類の施肥	六十六
第三十五課	植方の疎密	四十八	第四十八課	茶	六十六

第四十九課	工藝作物	六十九	第六十二課	果樹の施肥	八十一
第五十課	土壤の水	六十九	第六十三課	果樹の剪定	八十二
第五十一課	土壤の温度	七十	第六十四課	果樹の整枝	八十三
第五十二課	土壤の過濕	七十	第六十五課	接木及び挿木	八十五
第五十三課	排水の方法	七十一	第六十六課	果樹の移植	八十七
第五十四課	森林の効用	七十三	第六十七課	桑樹の栽培	八十八
第五十五課	林樹の種類	七十四	第六十八課	苗床	九十
第五十六課	造林	七十四	第六十九課	促成栽培	九十二
第五十七課	桃	七十六	第七十課	霜害	九十二
第五十八課	梨及び苹果	七十七	第七十一課	農家の心得	九十三
第五十九課	柿	七十八			
第六十課	柑橘	七十九			
第六十一課	果樹	八十			

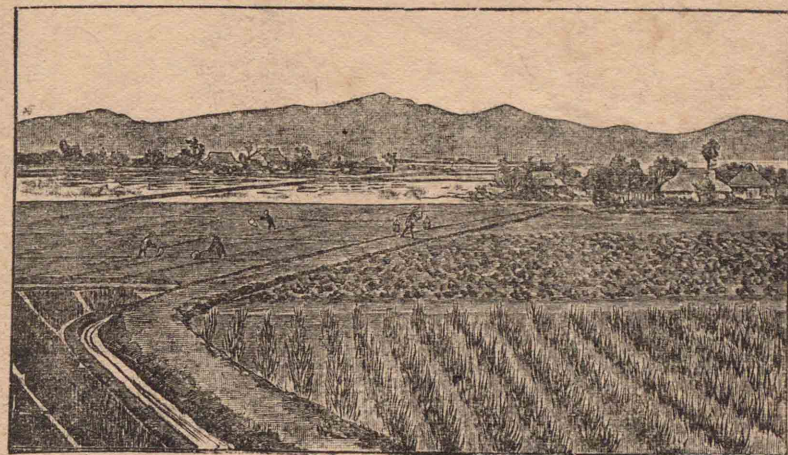
小學農業書 男子用 卷一

第一課 農業

農業は、作物を栽培し、家畜を飼養し、樹木を仕立て、衣食住に必要なものを産出する仕事である。

農業がなければ我等は一日も生活することが出来ず、又農業が盛でなければ商工業も榮えることが出来ない。

かやうに農業は、人類の生活及び産業の發達に必須なばかりでなく、之に従事するものは、最も堅實な精神に富み、身體強健且長壽である。實に農業は人類に缺くことの出来ないものであつて、又國家隆盛の



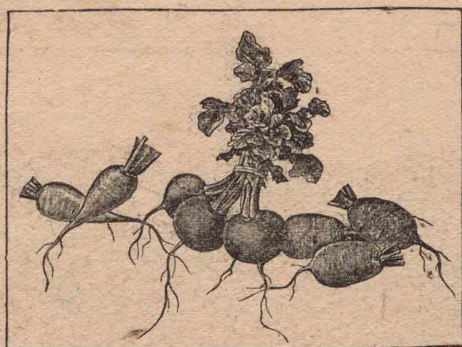
源泉である。

第二課 時無大根

時無大根は生で食し、又酢漬塩漬などにして食用に供する。此の一種二十日大根は、播種してから二三十日で收められる。二十日大根の根の形には球形・圓筒形・紡錘形などがあり、色には赤・紫・白・黄などがある。

冬季を除けば何時でも播種することが出来、栽培は極

二十日大根



めて容易である。即ち土地を丁寧耕し、下肥などを施した後に播種し、発芽後は間引、其の他の手入を行ふ。

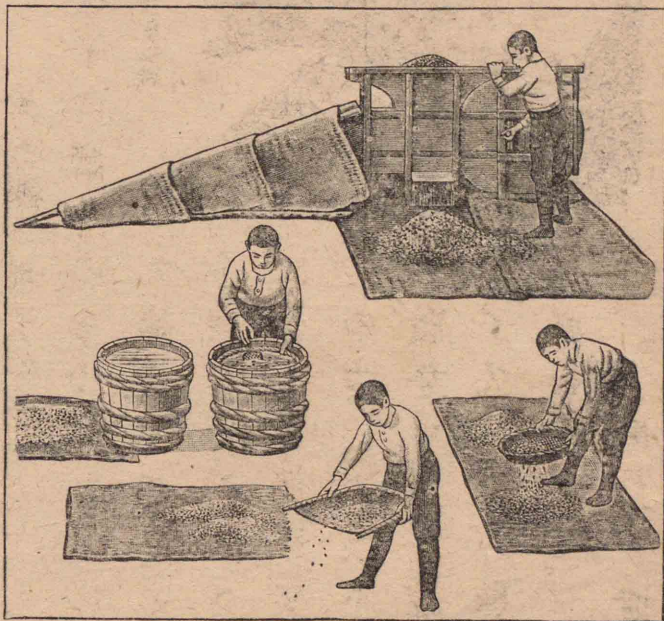
第三課 種子の良否

種子は作物の本源である。種子が良好でなければ良い作物を得ることが出来ない。種子は新しくして其の粒が大きく且重いものがよい。

大きくて重い種子は発芽がよければ、養分を含むことが多いから、芽はこれに養はれて生育が良好である。

第四課 選種

種 選



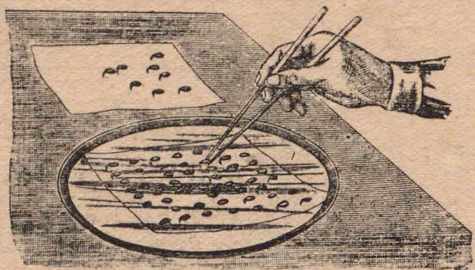
選種の方法には、篩選・箕選・唐箕選などがある。篩選は種子の大小を分つ法で、箕選及び唐箕選は軽重を分つ法である。

稲・麥などの選種には塩水選を行ふがよい。塩水を造るには食塩を用ひ、又食塩の代りに苦塩くえんを用ひることもある。小麥・裸麥には濃い苦塩水を用ひる。

蔬菜類などの種子は、形状・色澤などによつて良否を見分けることが大切である。

第五課 種子の發芽

發芽試験



種子の發芽の多少を知るには、之を皿の上に並べて適當な温度の場所に置き、絶えず濕を與へて發芽させる。かくして其の數によつて發芽歩合を計算する。發芽歩合の少いのは不良な種子である。發芽歩合を確めることは、購入した種子又は古い種子を用ひる場合に特に必要である。

第六課 播種の時期

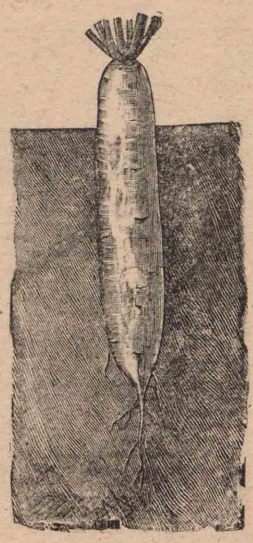
播種の時期は、作物の種類によつて差がある。一般には春又は秋が播種の季節で、春は三月末から五月の初まで、秋は九月の初から十月の終までに播くものが多い。

播種は発芽に適當な温度の時を選ぶことが大切で、その温度は作物の種類によつて異なる。温度の不適當な場合に播けば発芽が遅れ、其の後の發育も不良になり易い。

第七課 整地

播種の前には、土地を耕し土塊を碎いてよく土を軟げ、丁寧に整地せねばならぬ。土が軟かであれば根がよく繁り、根がよく繁れば莖葉も良く繁茂して收

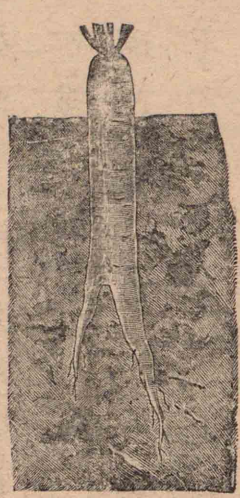
整地した場所の大根



量が多い。

耕し方は丁寧に深く行ふがよい。深く耕せば根が深く土中に蔓り、多く養分を取り、作物がよく繁り、又出來過ぎるやうなことも少い。

整地せぬ場所の大根

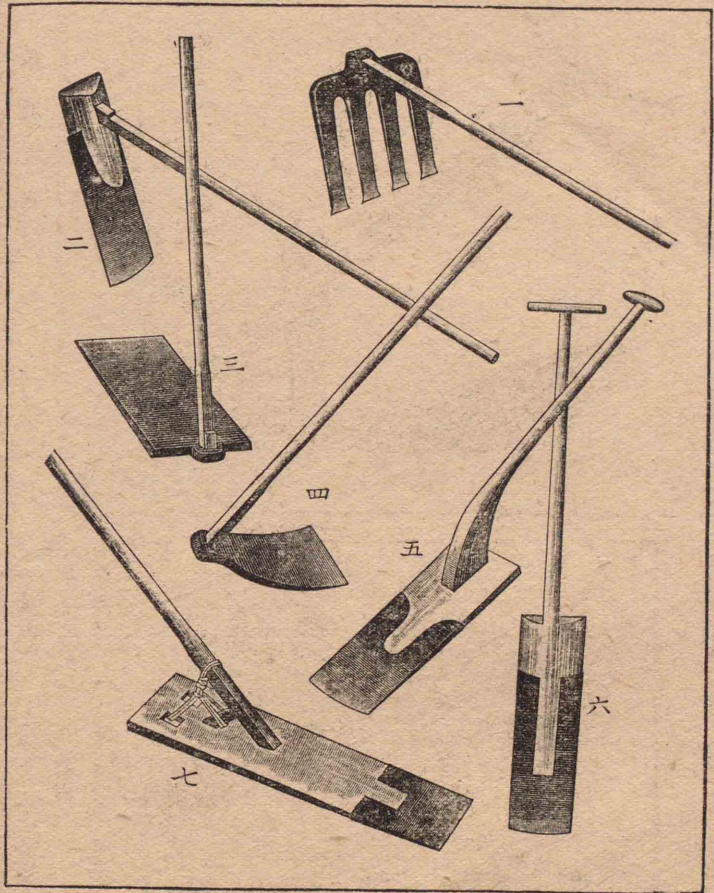


第八課 整地用農具

整地をなすには往々手用の農具を用ひる。就中最も普通なのは鍬であつて、鍬には普通鍬、金鍬、唐鍬、備中鍬などがある。作業土質、土地の状態などに應じて適當なものを選ばねばならぬ。普

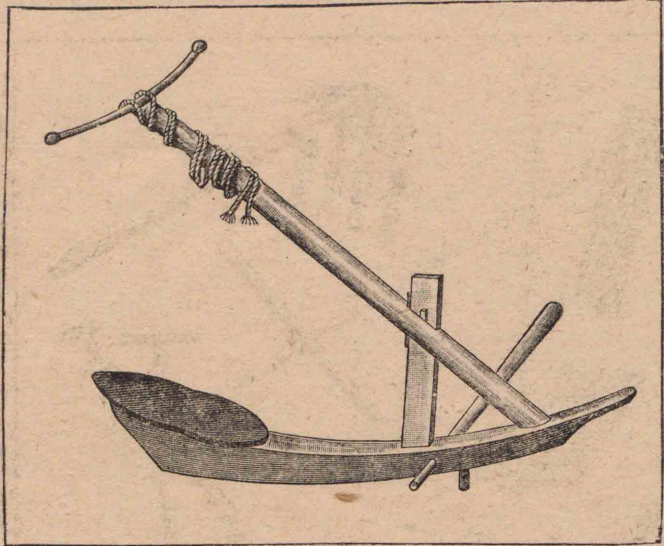
通鍬には種類が多いが、其の構造は鑿風呂及び柄の

一、備中鍬 二、普通鍬 三、金鍬 四、唐鍬 五、江州鍬 六、京鍬 七、鑄鍬

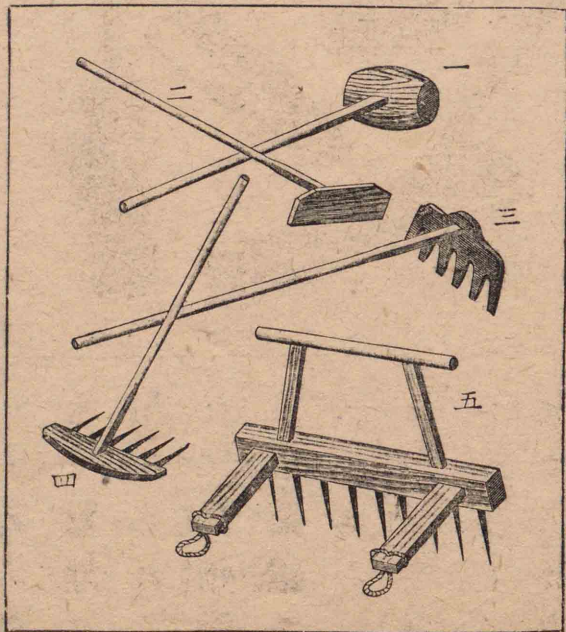


三部から成つてゐる。鋤も亦整地にも用ひられ、これに江州鋤、京鋤、鑄鍬などがある。牛馬の力を利用して耕すには犁を用ひる。犁

抱持立犁



一、塊割 二、えぶり 三、金ざらひ 四、木ざらひ 五、馬鍬



るのには鍬や鋤を用ひるのに比して、仕事は丁寧に出

には種類が多い。犁を用ひ

来ないが、労が少なくて捗どる利益がある。
土塊を碎く農具には、手用のものにえぶり、木ざら
ひ、金ざらひ、塊割くわなどがあり、牛馬の力によるものに
馬鍬まぐわなどがある。

第九課 土壤の種類

土壤は土粒の大小によつて、砂土、埴土、壤土の三種
に大別する。

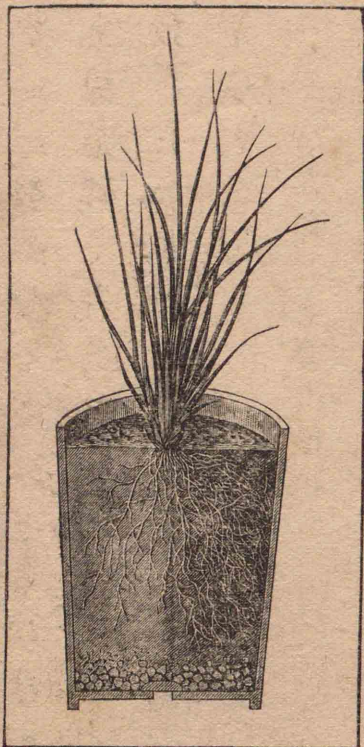
砂土は耕し易いけれども乾き易く、埴土は之に反
する。壤土は砂土と埴土との中間のもので、最も良い
土壤である。土壤の耕し易いものは軽いといひ、之に
反するものは重いと云ふ。砂土を軽い土、埴土を重い
土といふのはこの意味に基づくのである。

第十課 施肥

肥料は主として土壤中の養分の不足を補ひ、作物
の生育を助け、收量の増加を圖る爲に施すものであ
る。

肥料は播種又は移植の際に基肥として施し、作物
の成長期間にも更に追肥として施用するのが常で

土中養分の多少と根の發育状態



ある。追肥は數回
に施すことがあ
るが、常に時期の
遅れぬやうに注
意しなければな
らぬ。

第十一課 甘藷及び馬鈴薯

甘藷は蒸したり、焼いたり、煮たりして食べ、其の他

澱粉を製し、

又アルコー

ルを造るに

用ひられる。

川越下總高

須四十日源

氏など品種

が甚だ多い。

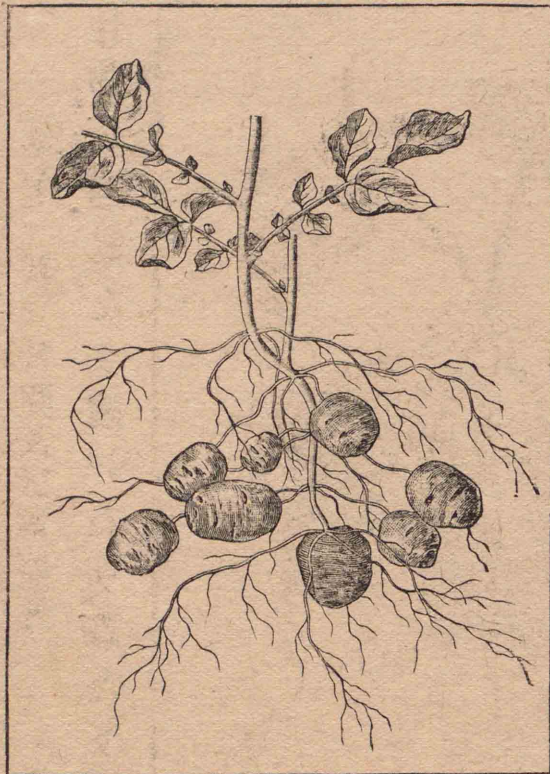
甘藷は温

度の高いの

甘 藷



馬 鈴 薯



を好み、軽い土壤に適してゐる。之を栽培するには、通常三月頃苗床に苗を仕立て、五六月頃本圃に移植し、適宜に中耕・土寄・蔓返などを行ふ。移植の際には堆肥・米糠・草木灰などを施すのが常であるが、暖地では施肥する必要が少い。

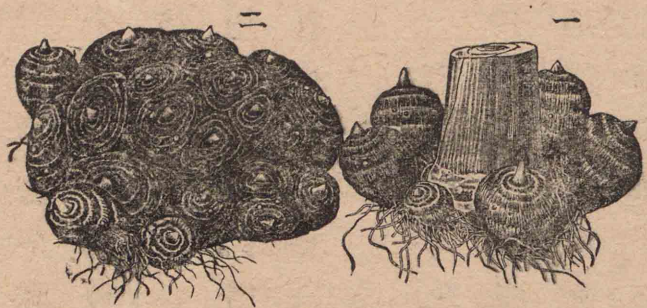
馬鈴薯の用途は甘藷に似てゐる。馬鈴薯にはアーリー、ローズ、男爵、スノー、フレーク

など品種が多い。稍寒地を好み、軽い土壤に適する。馬鈴薯を栽培するには、三四月頃種薯を植付け、発芽した後は勢のよい芽一二本を残して他を除き、中耕・追肥・土寄などを行ふ。基肥には堆肥・草木灰などを用ひ、追肥には多く下肥を施す。追肥はその時期の遅れぬことが殊に大切である。

第十二課 芋類

芋類の球莖は煮て食べ、葉柄は生のまゝ、又は乾燥したものをも料理に用ひる。芋類には里芋・九面芋など種類が多く、そのうち最も主要なものは里芋で、これに早生・土垂・豊後・赤芽などの品種がある。芋類は温暖で濕潤な氣候を好み、土地は水分の不

一、里芋 二、九面芋



足しない處がよい。芋類を栽培するには、適當の距離をおいて穴を掘り、基肥を施し、種芋を植ゑて適度の深さに土を被ふ。植付は霜害のない限り早い方がよい。

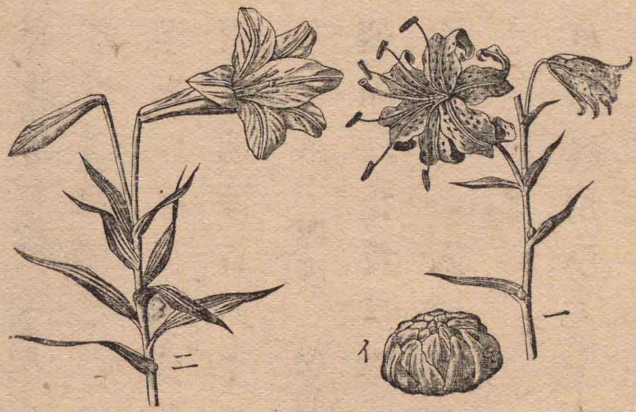
肥料は堆肥・油粕類・下肥などがよく、補肥は二回位に施す。成長中には適宜中耕除草・土寄を行ひ、早害の虞ある場合には敷藁をなし、又灌水を行ふこともある。

第十三課 百合

百合は花が美しく香氣が高いばかりでなく、鱗莖

一、おにゆり
二、つばうゆり

イ、鱗莖



は澱粉に富み、中には一種の風味を有し、食用に適するものもある。

百合には食用に適するものにおにゆり、すかしゆりなどがあり、観賞用に適するものにて、つばうゆり、かのこゆり、やまゆり、さゝゆりなどがある。

百合は主に子球によつて繁殖させるが、又鱗片をも用ひる。おにゆりでは珠芽を用ひることもある。百合の苗を仕立てるには、秋季に苗床を設

けて之に植付け、冬季は防寒をなし、春發芽した後は除草をなし、又下肥などを施して發育を助ける。肥料は鱗莖に觸れないやうに施し、本圃に於ける栽培法は芋類に準ずる。食用のものは蕾を摘除して鱗莖の發育を助けるがよい。

第十四課 朝顔

朝顔は花及び葉が變化に富み、品種が甚だ多く、又變化し易い。露地にも栽培するが、近年は鉢に栽培することが多い。

播種に用ひる土壤には肥料を施す必要はないが、苗の育成及び定植に用ひる土壤は、養分に富み排水のよいことが大切である。腐植に富む土壤に川砂を

朝顔



一、大輪咲

二、獅子咲

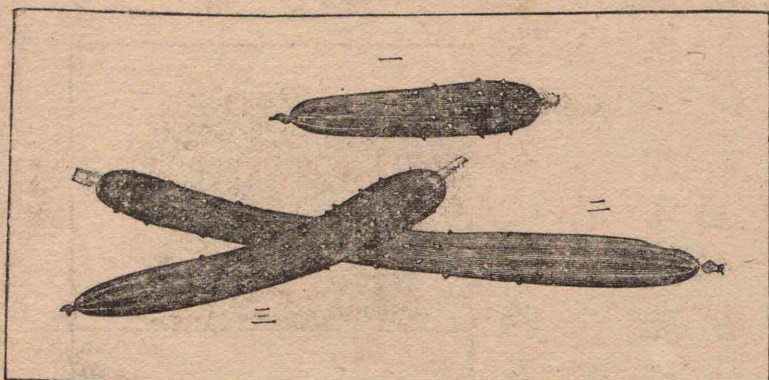
三、牡丹咲

混じ、堆肥、油粕などを加へて、よく腐熟させたものがよい。朝顔を

栽培するには、四五月の頃苗床又は鉢に播種し、發芽後小鉢に假植し、次に大鉢に定植する。定植した後は日當りのよい處に置き、灌水に注意し、又時々液肥を施し、仕立法に應じて、適宜に摘心、摘芽を行ふ。

第十五課 胡瓜及び南瓜

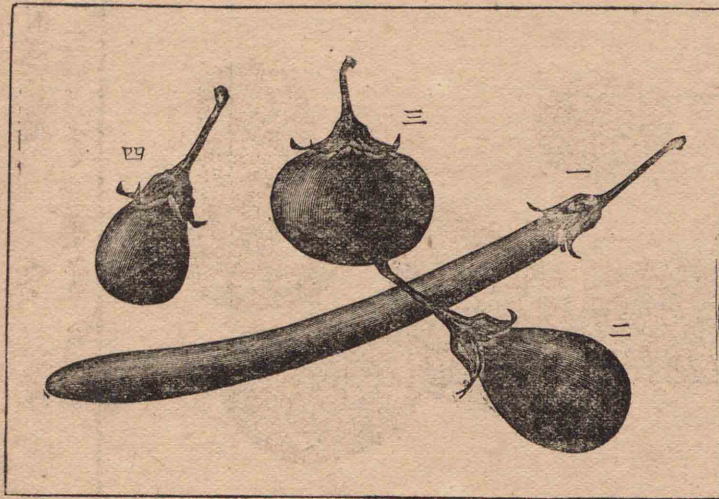
胡瓜の品種



一、節成 二、支那三尺 三、青胡瓜

胡瓜には、節成、白胡瓜、青胡瓜、八人枕、支那三尺などの品種がある。胡瓜は直播することもあるが、通常二三月頃温床に播種して苗を仕立て、霜害の虞なきに至つて本圃に移植する。本圃には豫め適當の距離に植穴を掘り、堆肥、油粕類、下肥などを施して土を被ひ置き、後苗を丁寧掘取つて植付ける。追肥には稀薄な下肥などを用ひ、通常二三回に施す。蔓が伸びたならば支條を立て、又節成以外の品

種品の茄

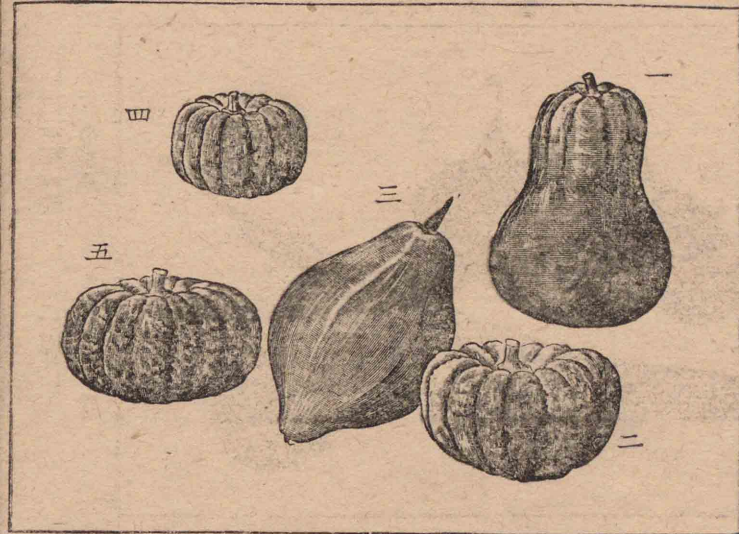


一、支那水茄
二、山茄
三、巾着茄
四、蔓細千成

茄は漬物となし、又は煮たり焼いたりし、種々に料理して食用に供する。品種に蔓細千成・眞黒山茄・丸茄・巾着・支那水茄などがある。

苗の仕立方は胡瓜に準ずるけれども、播種の時期を稍早くし、温床の温度も稍高くするがよい。忌地性が強いから、苗床の土は毎年之を取り代へ、本圃は一度栽培した後は數年間栽培せぬがよい。栽

南瓜の品種



一、西京
二、菊座
三、ハツバード
四、黒皮
五、縮緬

種では適宜に摘心を行ふ。

南瓜には黒皮・縮緬・菊座・西京・ハツバードなどの品種がある。其の栽培法は胡瓜に準ずるけれども、植付の距離を遠くし、支條の代りに麥稈を敷いて、其の上に匍はせる。施肥は過量及び追肥の遅れるのを忌むものである。開花期に降雨の多い場合には花粉の人工媒助を行ふがよい。

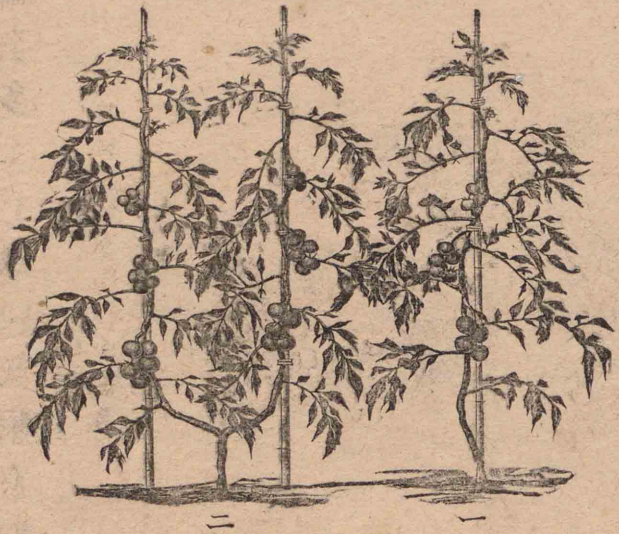
培の方法も胡瓜に準ずるけれども、一般に肥料の分量を多くし、殊に灰類を加用するがよい。補肥には下

立枯病にかゝつた茄苗



肥油粕類などを數回に與へ、常に勢力を旺盛ならしめ、又適宜に除草・中耕・土寄・支條立を行ふ。收穫は果實の色澤の最もよい時に行ひ、早いのは六月から、晚いのは十月

蕃茄 一、一本仕立 二、二本仕立



若しくは其の後にも及ぶのである。

茄の病害には立枯病・青枯病などがある。

蕃茄は生で食べ又ソー
スの原料にも供する。品種
にベスト、オブ、オール、ア
リアナ、ジョンベアー、マー
ローブ、ボンデローザ、愛知
トマトなどがある。

るが、苗床の温度は稍低くて足り、苗は稍早目に本圃

に移植する。仕立方に一本仕立と二本仕立との二種
があり、支條を與へ、腋芽を摘み、適宜に摘葉・摘果を行
ふ。肥料は茄よりも稍、少く與へる。

第十七課 植方の深淺

苗を植ゑるには、其の深さを適度にせねばならぬ。
植方が淺過ぎるときは苗の倒れる虞があり、之に反
して深すぎるときは根がよく發育せず、これがため
に成長が遅れるものである。故に倒れない程度に淺
く植ゑることが肝要である。

第十八課 苺

苺は生で賞味せられるばかりでなく、ジャムなどの
原料にも供せられる。福羽・クラークス、シー・ドリリング、

苺の株か匍ら枝の出る状



ビクトリヤ・ドクトル、モー
レルなど品種が多い。

苺は溫和で空氣が乾燥
し日照の多い氣候に適し、
砂土・砂壤土などの土地に
良品を産する。苗を育てる
には、六月頃匍枝に生じた
苗を保護して置き、七月頃
掘取つて苗床に植付け、下
肥を施して發育させる。九
十月頃基肥を施した本圃
に定植し、翌春花の咲くま

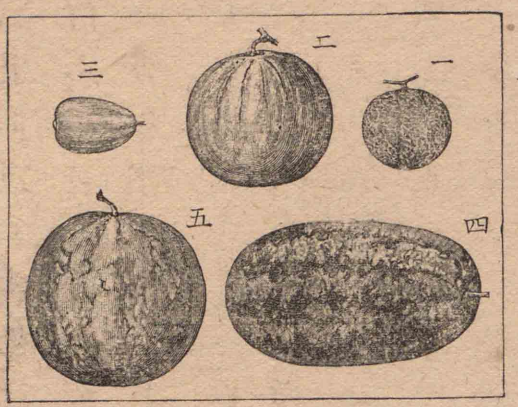
でに二三回補肥を施し、適宜に中耕土寄などをなし、
蕾が出来たならば敷藁を施し、結果した後は適宜に
摘果を行ふ。收穫は果實の成熟するに随つて順次に
行ふ。匍枝は苗に育てるものの外は速に除去して株
の勢力を養ふがよい。

第十九課 西瓜及び甜瓜

西瓜には在來種の外、アイスクリーム、大和、マウン
テン、スキート、スキート、サイベリアンなどの品種が
ある。西瓜は高温で乾燥した氣候を好み、砂質の土壤
に良品を産し、連作を忌むことが甚だしい。

栽培法は南瓜に準じてよいが、通常一箇所に六七
粒を直播とし、土を被つた上に切藁を撒布して種子

一、西洋甜瓜
二、大和西瓜
三、梨甜瓜
四、マウンテン、スキート
五、アイスクリーム



を保護し、發芽した後は順次に間
引いて一本を残す。西瓜には多量
の肥料を施すことが必要であつ
て、油粕類、米糠、草木灰などが多
く用ひられる。果實が茶碗大になつ
たら成口を上に向けて正しく坐
せしめる。

甜瓜には金甜瓜、銀甜瓜、梨甜瓜、
西洋甜瓜などがある。栽培法は西
瓜に準ずるけれども、條間及び株
間を狭くする。甜瓜は孫蔓によく結果する性がある
ので、摘心はその栽培上最も大切な作業の一である。

第二十課 瓜類の害蟲

瓜類の害蟲には瓜守うりぼへ・蚜蟲あぶらむしなどがある。瓜守の害を防ぐには、つとめて之を捕殺し、又被覆を施し、或は根の周圍に紙などを敷いて産卵を防ぐがよい。



瓜守

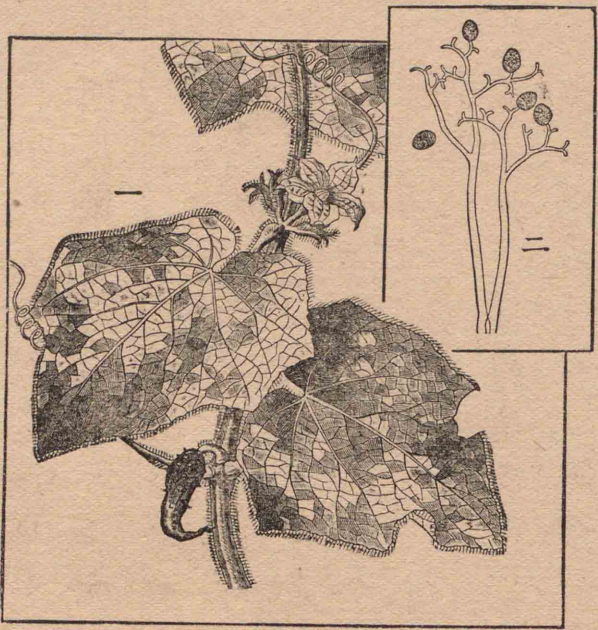
蚜蟲は繁殖が頗る速であるから、未だ多く発生せぬ前に驅除することが大切である。之を驅除するには除蟲菊石鹼合劑などを用ひるがよい。

第二十一課 瓜類の病

瓜類の病には露菌病・白絹病などがあり、其のうちでも最も恐るべきは露菌病である。之を豫防するにはボルドー液又は銅石鹼液を敷

一、露菌病にかゝつた胡瓜
二、露菌病菌

胡瓜の露菌病



回撒布するがよい。

ボルドー液は硫酸銅溶液と石灰乳とを混じて製し、銅石鹼液は硫酸銅溶液と石鹼水とを混じて製する。

第二十二課 果

菜類

果菜類は多くは夏季に栽培する。その果實は生のまゝ、或は漬け或は煮て日常の食用に供する。

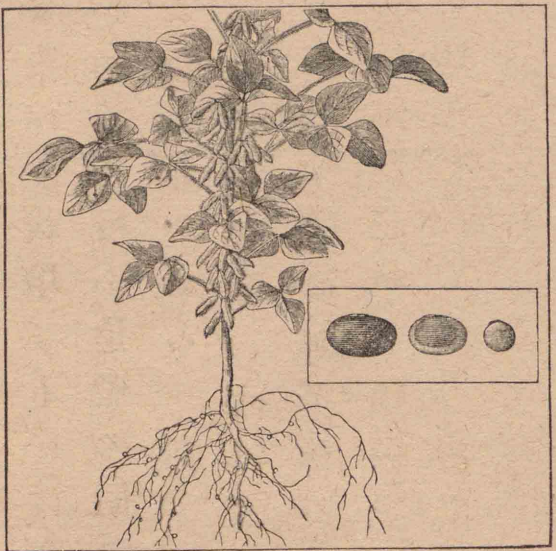
果菜類のうち、西瓜・甜瓜・越瓜などは本圃に直播し、
苺は株分して植付けるが、其の他は大抵苗を仕立て
て後本圃に移植する。

果菜類を栽培するには、概ね多量の肥料を施し、又
摘心・摘芽を行ふ。追肥の回数と分量とは、果菜の種類
によつて差がある。

第二十三課 大豆

大豆は味噌・醤油・豆腐・湯葉等を製し、又油を搾り、其
の粕は飼料・肥料等に用ひる。大豆には品種多く、收穫
の時期によつて夏大豆と秋大豆とに分ける。又粒に
大小があり、形に丸いものと扁平なものがある。色
は黄色が普通であるが、他に黒・緑・褐・斑などもある。

大豆



大豆は本邦到る處に栽培せられるが、稍寒地に適
し、土地は稍粘重な壤土
がよい。然し氣候寒冷の
地方では軽い壤土でも
よい。

大豆を栽培するには、
圃地を耕し、草木灰・過燐
酸石灰などを施し、十五
センチメートル乃至三

十センチメートルを隔てて二三粒宛播種する。發芽
後は除草・中耕を行ひ、子實が過半熟した頃に之を拔
取り、よく乾かして打落すのである。

大豆の外豆類に屬する作物には、小豆・豌豆・豆、蠶豆、菜豆、落花生などがある。豆類の實は蛋白質に富み、食料として滋養の効が多く、又種々の製造原料となり、莖葉は肥料及び飼料に適する。豆類には忌地性を有するものが多い。整地其の他栽培法は概ね簡單で足るが、蔓性のものには支條を與へねばならぬ。肥料としては草木灰・過磷酸石灰などが貴ばれ、下肥・油粕類などは多く用ひられない。

第二十五課 雑草と除草

雑草には、ひえ・ひるむしろ・えのころぐさ・めひじは・すぎななど種類が甚だ多い。



一 なぎす 二 ひむろし 三 のこのるさ 四 ひえ 五 めひじは

雑草は強壯であつて何れの地にもよく繁茂し、作物の取るべき養分を奪ひ、日光を遮り、又害虫の巢窟

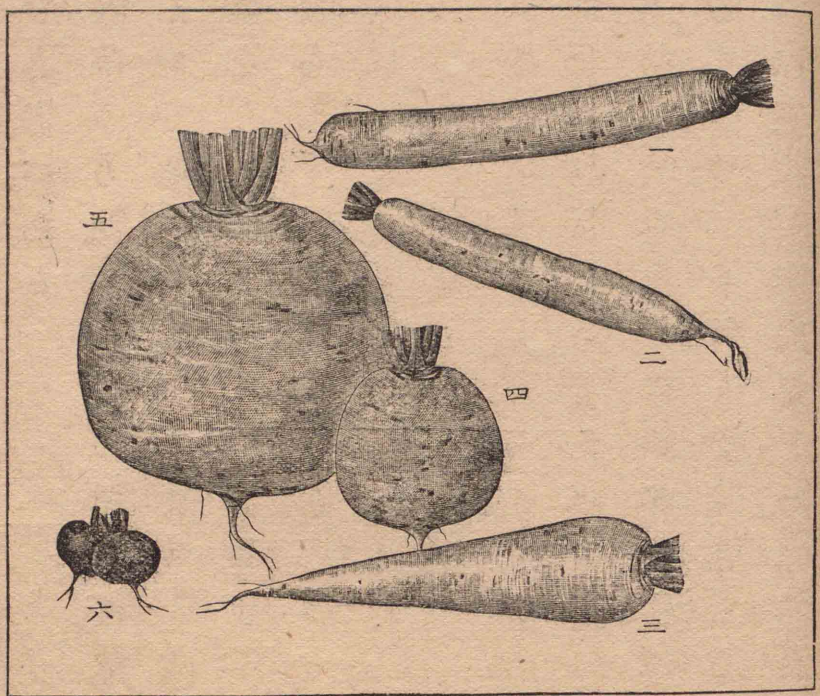
となる害がある。

除草の方法は雑草の種類によつて異にする。種子によつて繁殖するものは、つとめて開花前に除き、地下莖などによつて繁殖するものは、丁寧^{ていねい}に掘取らねばならぬ。すべて雑草は既に生えたものを除くよりは、常によく耕して生えさせぬことが肝要である。

第二十六課 大根及び蕪菁

大根は漬物にしたり、煮て副食物としたり、用途廣く重要な蔬菜である。品種は甚だ多く、之を大別して秋大根・春大根・夏大根・時無大根の四種となすことが出来る。そのうち秋大根は最も主要なもので、練馬^{ねりま}宮^{みや}重方^{じゆうほう}領^{りやう}聖^{せい}護^ご院^{いん}櫻^{おう}島^{しま}などが之に屬する。

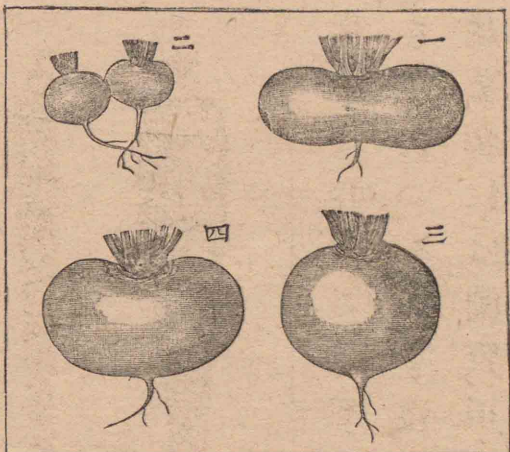
大根の品種



一 練馬 二 宮重 三 方領 四 聖護院 五 櫻島 六 日十二

秋大根を栽培するには、八月頃土地を深く丁寧^{ていねい}に耕し、よく腐熟した堆肥・米糠・下肥・草木灰などを施して後播種する。發芽後は數回間引を行ひ、追肥として二三回下肥

種品の菁蕪



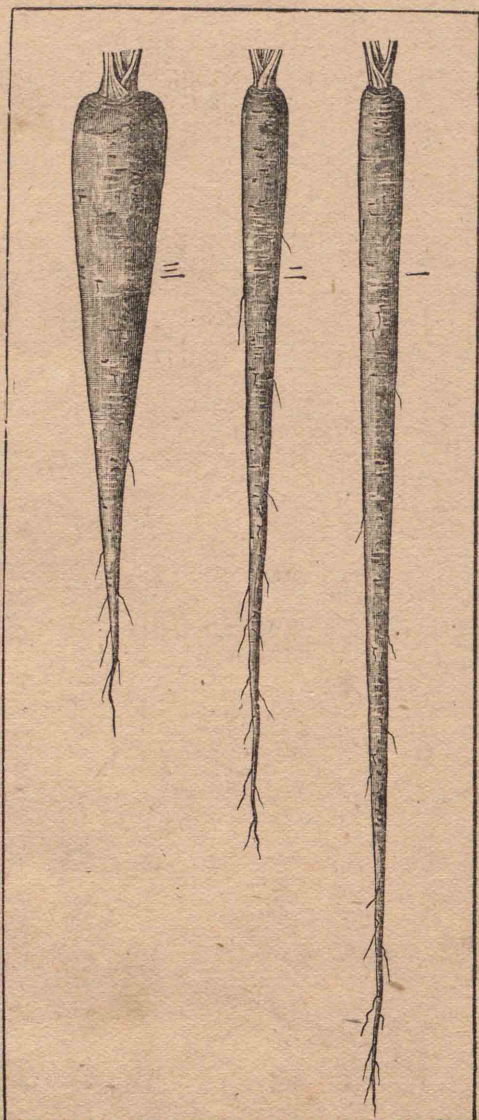
一、近江 二、小蕪菁
三、天王寺 四、聖護院

を施し、又中耕・土寄をなして根の發育を助ける。
蕪菁には小蕪菁・近江・天王寺・聖護院などの品種がある。蕪菁の栽培法は大根に準ずるけれども、整地の際には、大根のやうに深く耕す必要がない。

第二十七課 牛蒡及び胡蘿蔔

牛蒡には瀧野川・砂川・札幌・大浦・堀川などの品種がある。牛蒡は根が著しく長いから、之を栽培する土地は特に深く丁寧に耕さねばならぬ。

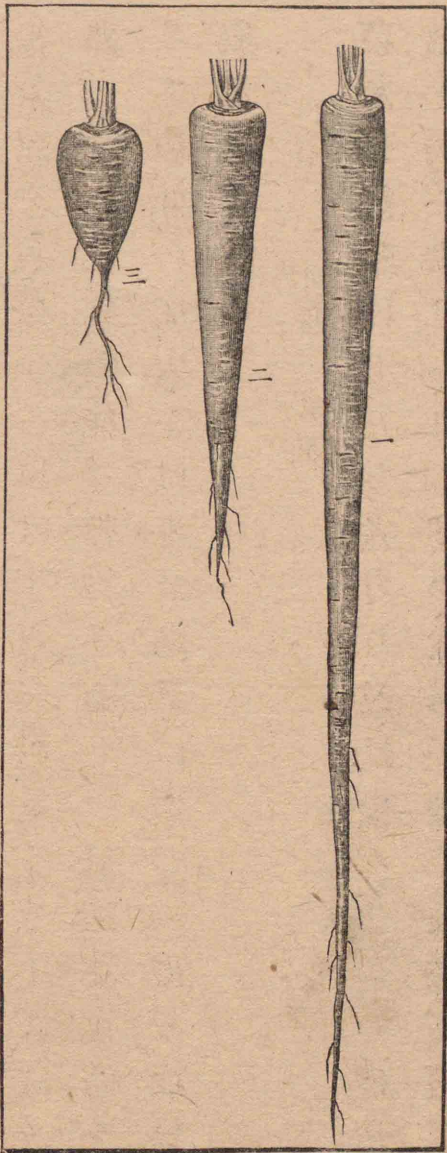
種品の牛蒡



一、瀧野川 二、札幌 三、大浦

播種は春秋の二季に行ひ、發芽後は注意して間引をなし、良いものを残し、數回中耕・除草・追肥をする。
胡蘿蔔には瀧野川・金時・札幌・時無などの品種がある。之を栽培するには、通常六七月頃播種し、極めて薄

胡蘿蔔の品種



一、瀧野川 二、金時 三、時無

く土を被ひて踏付け、藁などをかぶせて乾燥を防ぐ。牛蒡も胡蘿蔔も肥料の種類・施用方法などは大根に準ずる。

第二十八課 根菜類

根菜類は人畜の食料として、貴重せられる作物で

ある。就中澱粉に富むものは往々澱粉・アルコールなどの製造に供せられる。根菜には暖地を好むものと寒地を好むものとあるが、概ね我が國到る處に栽培せられ、輕鬆な土壤に適する。蓮慈姑などの外は通常畑地に栽培せられる。

根菜類を栽培するには丁寧に整地をなして、よく腐熟した堆肥その他の肥料を施し、中耕・除草・土寄をなして根部の肥大をはかり、適期に至つて掘り、或は抜取るのである。

第二十九課 菘類

菘類は漬物にしたり、煮たり、或は生のまゝで日常の副食物に供せられる。其の栽培が廣く品種が甚だ

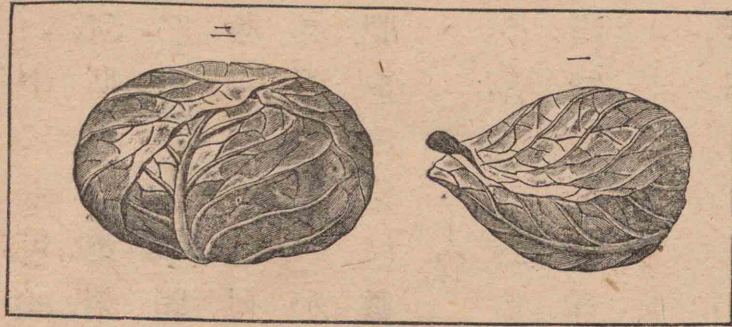
多い。中にも包頭蓮白菜・芝罘白菜・直隸白菜・縮緬白菜・三河島菜・山東菜・體菜などは秋栽培し、又小松菜・京菜などは冬春の間に栽培する主なものである。苣類の栽培は大根と異なり、土地を殊更に深耕する必要はないが、間引に注意し、肥料は窒素に富んだ液肥を多量に數回施すことが肝要である。

第三十課 甘藍

甘藍は煮たり又は生のまゝで各種の料理に用ひ、又漬物にして食べる。アーリー、ジャージー、ウエークフ、ールド・サクセション・アーリー、サムマー等は良い品種である。

甘藍は冷涼な氣候に適し、壤土に良品を産する。之

甘藍の品種



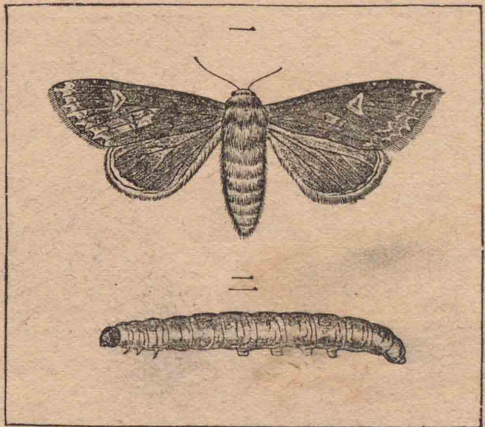
一、アーリー、ジャージー、ウエークフ、ールド
二、サクセション

を栽培するには、暖地では秋季に、寒地では春季に苗床に播種し、後適宜に假植を行ひ、苗が適當の大きさになると良い苗を選んで本圃に定植する。基肥には堆肥・油粕類・草木灰などを用ひ、追肥には下肥を用ひることが多い。止肥は其の時期の遅れぬことが肝要である。又蚜蟲・夜盜蟲などの防除を怠つてはならぬ。

第三十一課 苣類及び

大根の害蟲

夜盜蟲



一、成蟲 二、幼蟲

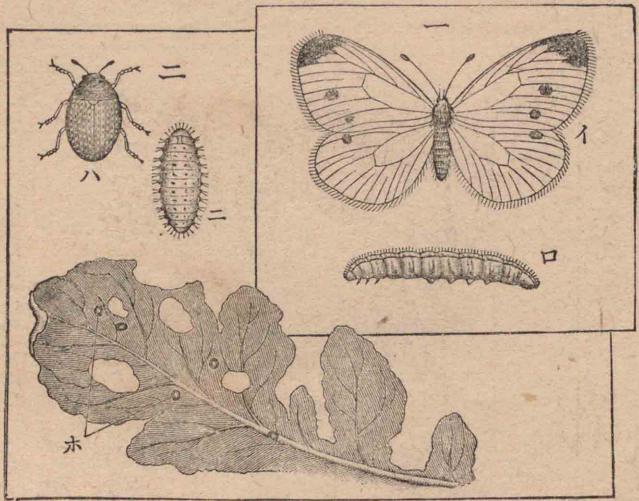
苧類・大根などの害蟲には、夜盜蟲・さるはむし・きすぢのみむし・青菜蟲・黒菜蟲・蚜蟲などがある。

夜盜蟲の幼蟲は、初には晝夜ともに各種の作物の葉を喰ひ之を害するが、成長した後は、晝間は土中又は葉の間に潜み、夜

間出でて大害をなす。

さるはむし・きすぢのみむしは幼蟲・成蟲ともに害をなし、青菜蟲・黒菜蟲は幼蟲が葉を喰害する。これ等の害を防ぐには、採卵・捕殺を行ひ、又除蟲菊

一、青菜蟲
イ、成蟲
ロ、幼蟲
二、さるはむし
ハ、成蟲
ニ、幼蟲
ホ、卵



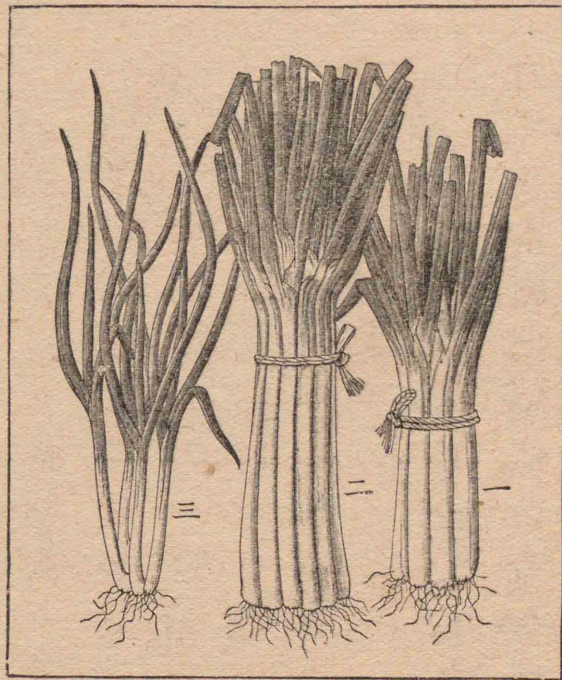
其の他の石鹼合劑・砒素劑等を撒布し、或は圃場の塵芥の燒拂ひをなし、夜盜蟲には溝を設けて遮斷するのもよい。

第三十二課 葱及び

玉葱

葱は種々の料理に用ひられ、四季共に食膳に供せられる。葱には根深葱と葉葱との二種があつて、千住葱・下仁田葱・九條葱などは主な品種である。

葱の品種



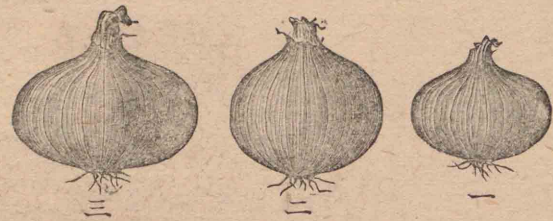
一、下仁田 二、千住 三、九條

こともある。

根深葱を作るには、深溝を掘つて苗を約七センチメートルの距離に植付け、堆肥等を入れ、後數回追肥

葱は冷涼な氣候を好み、よく寒氣に耐へ、壤土に良品を産する。通常春秋二季に苗床に播種し、苗が適當の大きさに成長した時に移植する。葉葱は株分によつて繁殖する

葱 玉



一、白色種
二、三、黄色種

を施し、成長と共に漸次土寄を行ふ。葉葱は二三本つつを一株として植付け、後數回に追肥を施す。玉葱は煮て種々の料理に用ひ、又生で食用に供することもある。品種は多いが、之を白色種、黄色種、赤色種の三種に大別することが出来る。最も普通に栽培せられるのは黄色種である。

玉葱を栽培するには、葱に準じて苗を育て、後本圃に定植する。苗は倒れない程度に浅く植付けるがよい。追肥は通常二三回に分施し、止肥

は其の時期の遅れぬやうにする。

第三十三課 葉菜類

葉菜類は多量の水分を含み、其の質が軟かである。四時殆ど絶えることなく栽培せられ、煮たり漬物にしたりなどして日常の副食物に供せられる。

葉菜類には種類が多く、我が國到る處に栽培せられ、概ね壤土に適する。整地は丁寧に行はねばならぬが、根菜類の如く深く耕さなくてよい。

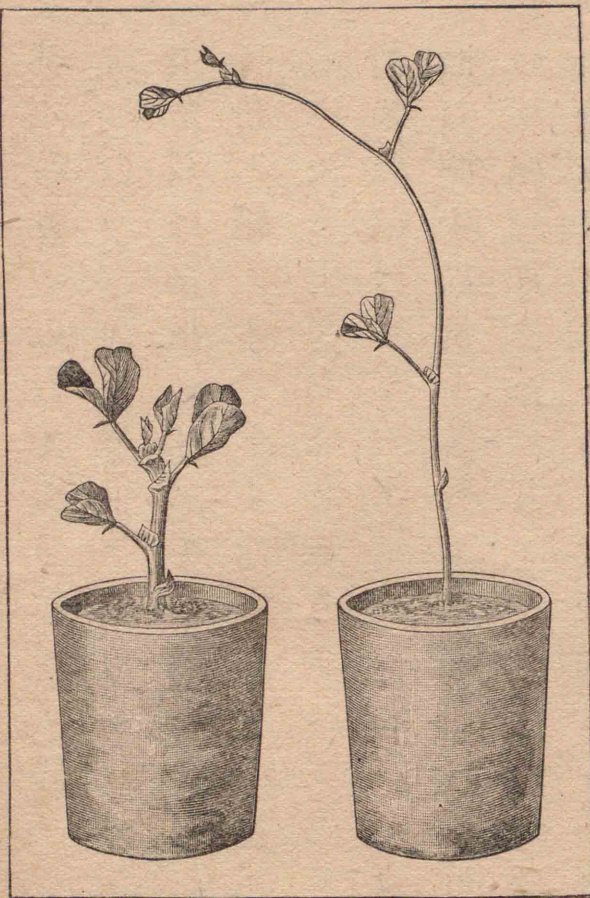
葉菜類を栽培するには、種類により直播し、若しくは苗を仕立てて後移植する。成長するに随つて屢、稀薄な液肥を施して成長を澁滞させぬやうにし、適宜に中耕・土寄などをすする。又特に軟白法を行ふことも

あり、越冬するものには防寒法もまた行はれる。

第三十四課 日光

日光のよく當ることとは、作物の生育に最も大切なことである。

日當りの良否による作物の生育状態の比較



日當りの悪い所では作物はよく繁茂せず、其の甚だしい場合には、色淡く、形細長く、質軟弱とな

るものである。

作物を強健に育て、よく繁茂させるには、密播・密植を避け、田畑の周囲に樹木を繁らさないやうにせねばならぬ。

第三十五課 植方の疎密

作物は種類によつて形に大小があり、品種によつて繁茂に差がある。形の大きなものや、繁茂の盛なもの、疎に植ゑ、之に反するものは密に植ゑねばならぬ。作物及び品種の同一な場合でも、肥沃な土地では繁茂が盛であるから疎に植ゑ、瘠地は之に反するから密に植ゑるがよい。

作物の植方が密に過ぎると、日光がよく通らず、養

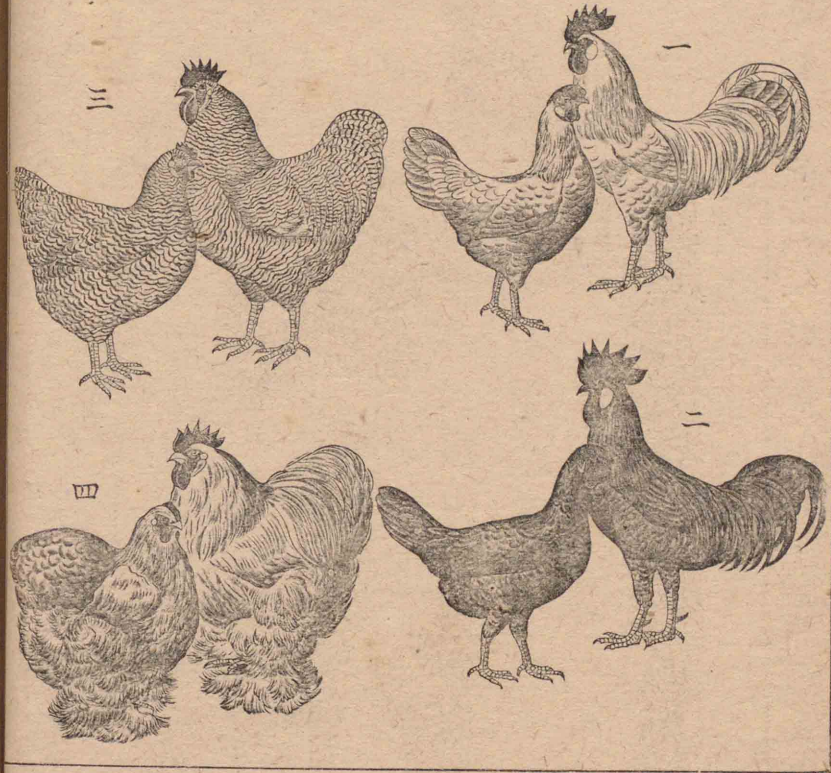
分の供給も不足して、其の發育が不十分なばかりでなく、又病害及び蟲害に罹り易い。之に反して疎に過ぎると、地面を十分に利用することが出来ず、收穫が少く、作物によつては發育が不揃となり、成熟も亦遅れる不利がある。

第三十六課 養鶏

鶏には品種が多いが、卵用・肉用・卵肉兼用などに大別せられ、それらの特徴がある。レグホーン種・ミノルカ種・コーチン種・ブラマ種・軍鶏・プリマス種・ロック種・名古屋種などは品種中の主なものである。その他愛翫用として矮鶏・長尾鶏などがある。

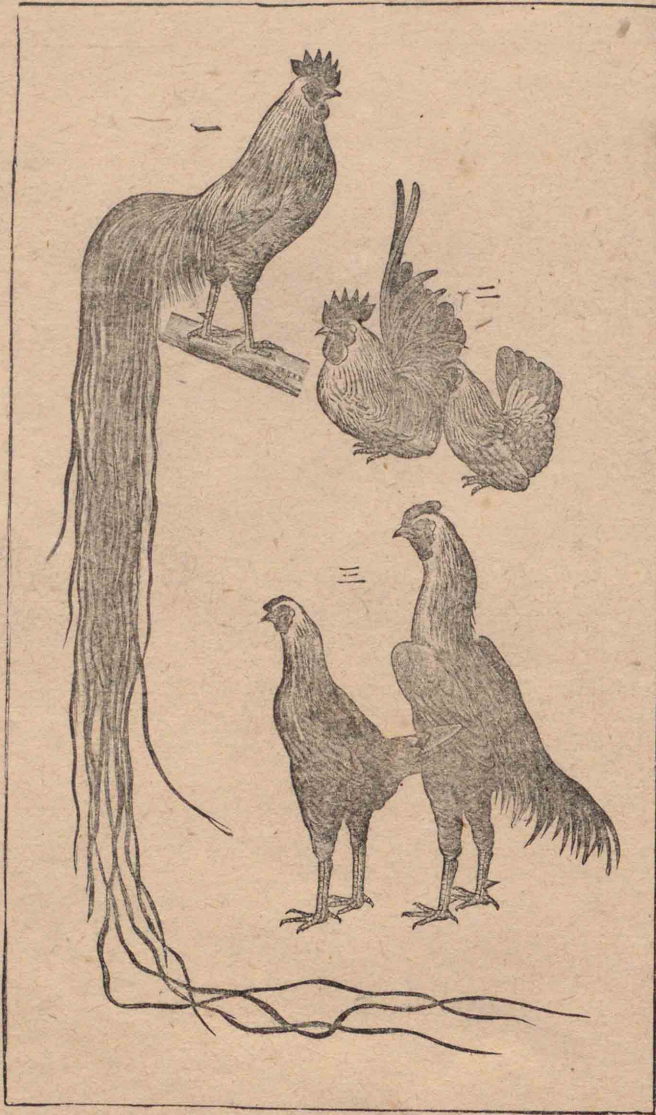
鶏の飼養法には放飼と柵飼とがある。放飼は最も

種品の鶏



- 一、レグホーン種
- 二、ミノルカ種
- 三、プリマスロック種
- 四、コーチン種

- 一、長尾鶏
- 二、矮鶏
- 三、軍鶏



鶏の衛生に適するが、それには広い土地を要するか

ら、往々小規模の經營に行はれるに過ぎない。

柵飼は狭い土地に多數の鶏を飼ふに適するから、經濟的の養鶏には汎く採用せられる。たゞ此の場合には鶏の衛生及び産出する卵の品質に常に注意して飼養管理を適當にせねばならぬ。

鶏舎は日當りがよく暖で乾燥する處に設け、其の中に柵木トナリと巢箱とを備へる。鶏舎は常に其の内外を清潔にし、又砂浴場を備へることが肝要である。

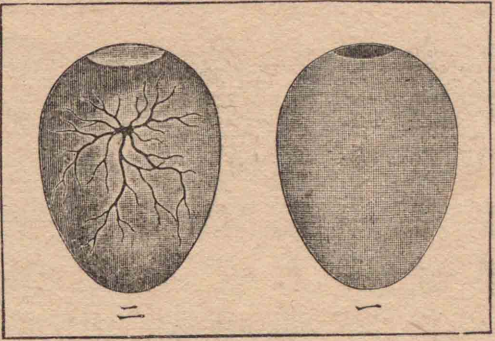
穀類・糠・麩ヌカ・諸類、臺所の殘滓、小魚・蟲類などは何れもよい飼料であつて、是等種々の飼料を與へることは、鶏の衛生上甚だよいことである。又毎日青菜類と清水とを給し、柵飼の場合には碎いた貝殻・骨粉などを與へねばならぬ。

第三十七課 鶏卵の孵化

種卵はよい親鶏の産んだもので、形が正しく新しいものを用ひるがよい。種卵を貯へるには、之を横にしておき、且動搖しないやうにする。甚だしく動搖させた卵は孵化しないのが常である。

鶏卵を孵化させるには通常母鶏に抱かせる。さうすると、母鶏の體温で胚は次第に發育して雛となり、凡そ二十一日で卵殻を破つて出て來る。孵化の場所は、薄暗くて成るべく静かなのがよい。乾燥し過ぎないやうに注意し、卵の汚れた時は拭つて清潔にせねばならぬ。母鶏は一日一回は必ず巢から出して餌を

一、透かして見た新鮮な卵
二、透かして見た孵化中の卵



與へ、又砂浴と運動とを行はせねばならぬ。

鶏卵を孵化させるに、母鶏の代りに孵卵器を用ひることがある。この法は多數の卵を隨時に孵化させるのに適するが、これを行ふには熟練を要する。

第三十八課 育雛

雛には最初は卵を煮たり又は焼いたりしたものを與へ、數日を経て穀類・菜類・蟲類・貝殻粉・砂などを與へる。雛の餌は一日數回少量づつ與へ、成長と共に其の回數を減ずる。雛には過食させない

ことが肝要である。

雛は寒氣及び濕氣に侵され易く、又蚊・猫等の害を受け易いものであるから、特に注意して懇に保護せねばならぬ。運動は雛の發育上甚だ大切なことであるから、舍外に出して遊ばせるがよい。

第三十九課 菊

菊は開花の季節によつて夏菊・秋菊及び寒菊の三種に分けられる。其の中で秋菊が最も主要なもので、大菊・中菊・小菊の別がある。

菊の繁殖は普通株分と挿木とによる。株分は冬至又は春の彼岸の頃に行ひ、挿木は五六月頃に行ふ。菊は連作を忌むから、花壇の土を取替へるか、又は

菊



一、二、大菊

三、中菊

四、小菊

心・摘芽を行ひ、又支條を立て、追肥を施し、鉢に植ゑたものは灌水に注意せねばならぬ。肥料は油粕類魚肥

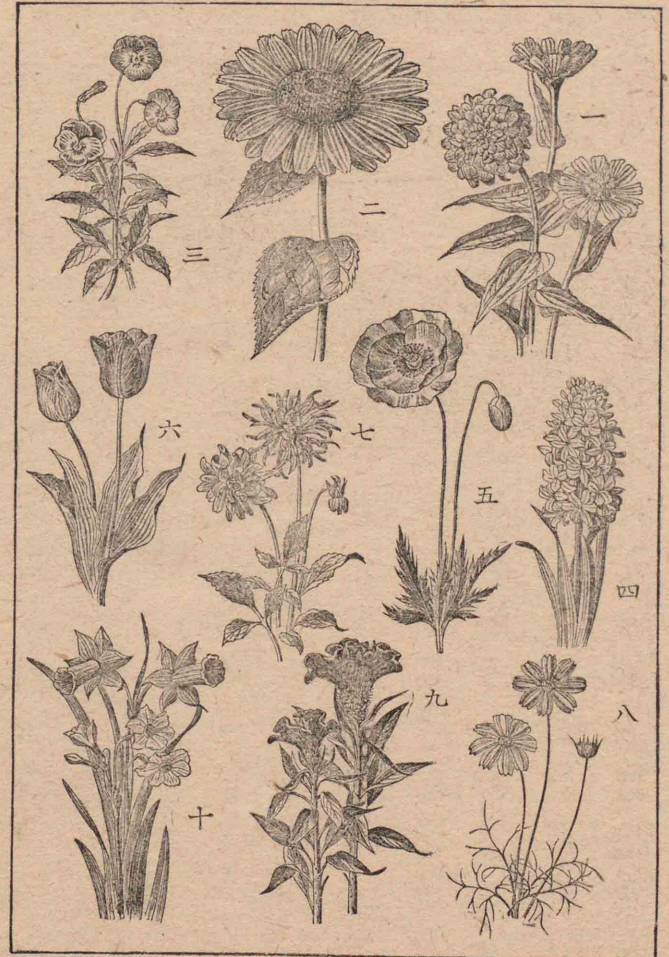
毎年地を替へて栽培するがよい。鉢に植ゑるには、腐壤に適宜肥料を加へて、よく腐熟させたものを用ひる。植付後は仕立法に應じて適宜に摘

米糠などがよい。尚管理に注意して葉の枯損を防ぎ、きくすひ・蚜蟲などの害を防ぎ、又病害を豫防することが大切である。

第四十課 庭園及び花壇

住家の周囲は整理して、庭園・花壇を設け、又果樹などを植ゑ、少しの空地でもよく之を利用すること、心掛けるがよい。さうすると住宅の美觀を増し、生活に興味を加へ、又衛生にもよいばかりでなく、同時に實益をも得られる。

庭園に植ゑる樹木には、松・金松・檜・柏・椿・木犀・躑躅・南天・もみぢ・くさくし・ひやつで・あをき・竹などの如き常緑のものと、櫻・梅・海棠・槭・木蘭・どうだん・はぎなどの如



一 ひやうやくにちさうひまは
 二 はまひり
 三 さしんすきみれ
 四 ヒヤシンス
 五 ひげなし
 六 チューリップ
 七 ヤリゲ
 八 コスモス
 九 けいとう
 十 水仙

き落葉するものがある。是等を植ゑるには樹木の性質、樹形、土地の乾濕、日當りの良否などを考へて配置を適當にし、植付後は時々の手入を怠らないやうにせねばならぬ。

花壇に植ゑる花卉類には、ひやうやくにちさうひまはり・さんしきすみれ・きんせんくわ・コスモス・けいとう・朝顔などの如き一二年生のものと、菊・百合・芍薬・ダリア・ヒヤシンス・チューリップ・水仙などの如き多年生のものと、牡丹・薔薇などの如き灌木とがある。

花卉類の繁殖は一二年生のものは播種により、多年生のものは株分挿木により、灌木は接木又は挿木によるのが常である。是等を植ゑるには草丈・開花期

花色の配合などに注意することが大切である。

第四十一課 蘭

蘭は疊表・花筵などの原料に用ひる。之を栽培するには、春から夏の間、苗を仕立てて置いて、十一月頃本田に移植する。整地はつとめて丁寧に行ひ、苗を植

一、蘭
二、七島蘭



付けた後は常に水を湛へて置く。蘭には多量の肥料を施すことが必要で、魚肥・大豆粕・過燐酸石灰などが多

く用ひられる。主として追肥として施して生育を促し、翌年七月頃刈取る。刈取つたものは泥水に浸してよく乾かす。

七島蘭は其の用途栽培法など蘭に準ずる。

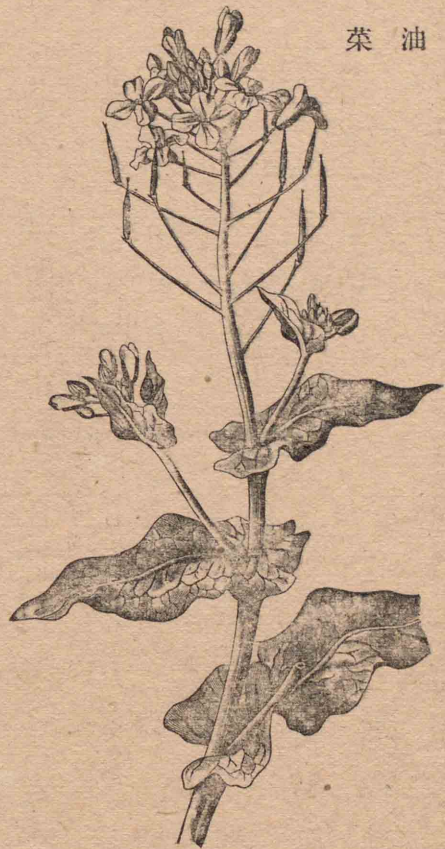
第四十二課 二毛作

氣候の甚だしく寒冷でない地方では、田地に於ても麥類・油菜・紫雲英・苜蓿・豌豆・馬鈴薯・玉葱などを裏作物として栽培し、二毛作を行ふことが出来る。二毛作を行へば土地及び勞力の利用を増すなど利益のある場合が多い。

第四十三課 油菜

油菜の子實は搾つて油を製し、粕は肥料として用ひられる。品種には種々あるが、普通種と帚種とに大別することが出来る。之を栽培するには、寒地では直

菜油



播を行ひ、暖地では畑地に栽培する場合に直播し、田地の裏作として栽培する場合には、秋に苗を

仕立て、冬になつて本圃に移植する。成長中は中耕施肥などに注意し、子實が過半熟した頃に收穫する。

第四十四課 麥類

麥類は稻に次いで重要な作物で、主なものは大麥と小麥とである。大麥には皮麥と裸麥との別があり、

又二條麥、四條麥、六條麥にも大別せられる。

大麥は何れも飯に炊き、味噌の製造に用ひ、皮麥は麥芽となして麥酒、飴などを製し、また家畜の飼料にも供する。

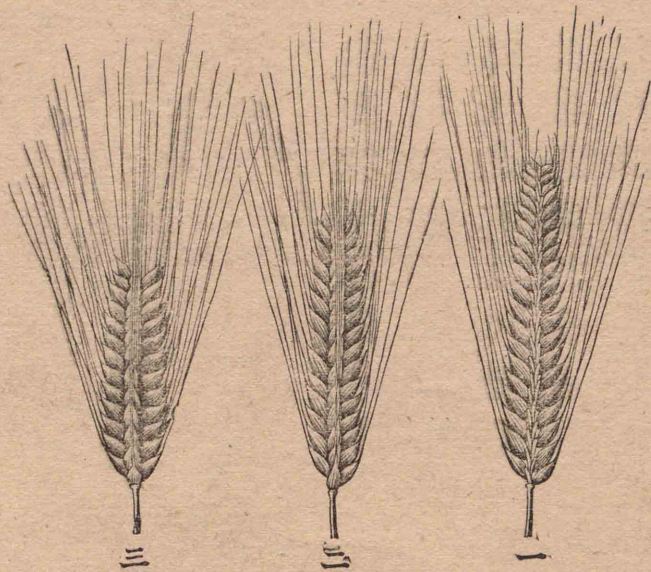
小麥はパン、麵類、麩、菓子などの原料とし、醬油の製造にも用ひる。

麥稈は屋根を葺くに

用ひ、種類により麥稈眞田を製する。

大麥の種類

- 一、二條麥
- 二、四條麥
- 三、六條麥



麥類は何れも溫和な氣候を好むが、稍寒冷な氣候

でも栽培する

ことが出来る。

一般に成熟期に

於ける雨は麥類に害

を與へることが少くない。大

小麥



麥は砂壤土に適し、小麥は埴壤土に適する。

麥類の整地には平作と畦作とがある。平作は乾燥する土地によく、畦作は濕氣の多い土地に適する。

麥類を栽培するには、整地の際に肥料を施して條播又は點播となし、麥の成長中に數回中耕をなし、又施肥を行ひ、初夏の頃になつて收穫する。

第四十五課 播種的方式

播種的方式には撒播、條播、點播の三種がある。撒播は手敷を要することが少いけれども、比較的多くの種子を要し、覆土や手入に不便であり、日光の照射、空氣の流通も平等でない。點播は利害が全く之に反し、條播は兩者の中間にある。而して作物の種類、氣候、土質などによつて、それゝ利害があるから、場合に應じて適當なものを選ばねばならぬ。

第四十六課 速効肥料と遲効肥料

肥料は種類によつて其の効驗に遲速がある。下肥、硫酸アンモニヤなどは速効肥料に屬し、堆肥、綠肥などは遲効肥料に屬する。

速効肥料は主として追肥に用ひ、往々數回に分施し、遅効肥料は基肥に適する。

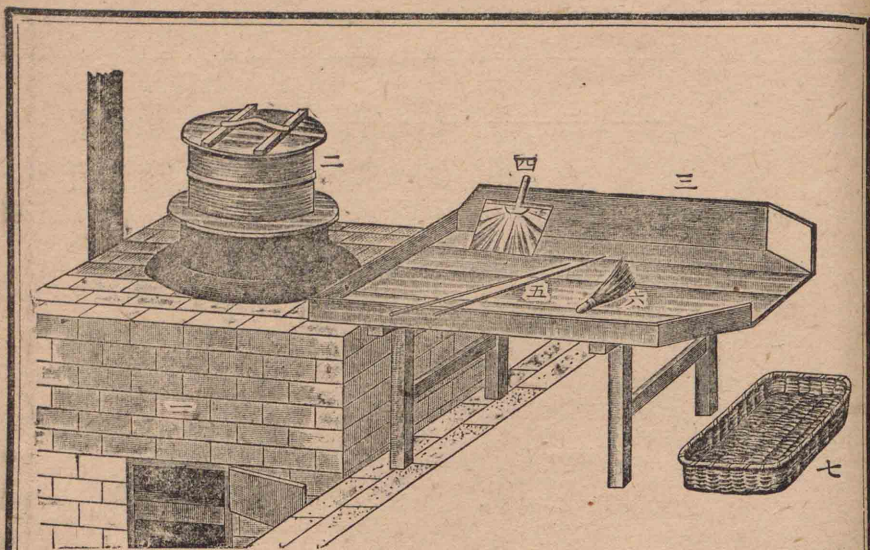
第四十七課 麥類の施肥

麥類の基肥には主に遅効肥料を用ひ、之に多少の速効肥料を加へるのが常である。補肥には速効肥料を數回に分施する。

麥類の肥料は春成長の盛な時期になつて効驗の最も多くあらはれるやうに施すことが大切である。施肥の時期が遅れると成熟が遅れるから注意せねばならぬ。

第四十八課 茶

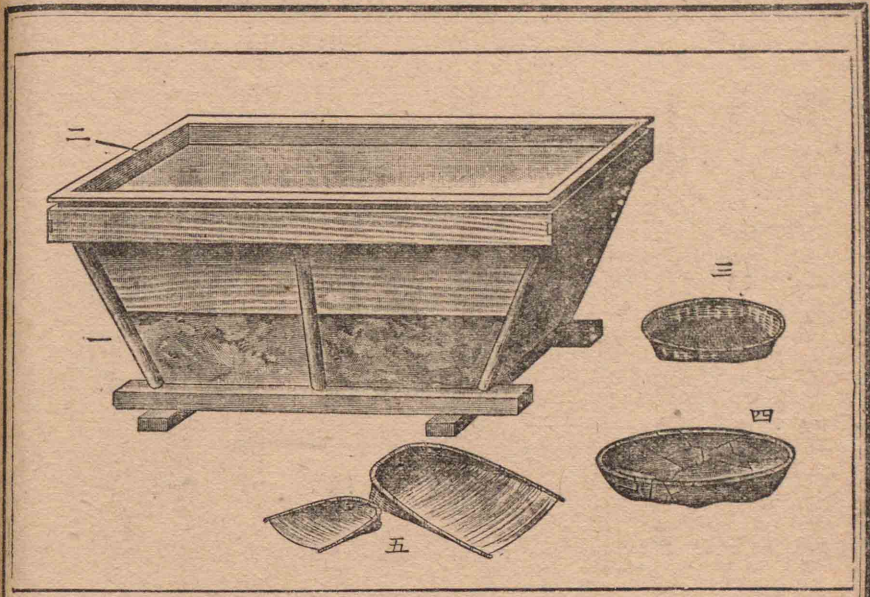
茶は温暖であつて雨の多い地に適する。春又は秋



一、竈
 二、蒸籠
 三、冷し臺
 四、團扇
 五、竹箸
 六、筵
 七、籠

種子を播き、四年目頃から新芽を摘採つて茶をこしらへる。摘採が済めば刈込をして樹の形を整へ、又毎年數回中耕及び施肥をする。

製茶には綠茶紅茶などがある。綠茶には番茶煎茶玉露などの種類がある。綠茶を製するには摘採つた芽



一、焙爐
二、助炭
三、篩
四、籠
五、箕

を蒸籠で蒸し、焙爐の上で揉みながら乾かすのである。紅茶は摘採つた芽を日光にさらして萎凋させ、之を揉んで醗酵させた後焙爐で乾かして製する。

つた。

第四十九課 工藝作物

工藝作物には、茶・煙草・棉・大麻・蘭・杞柳・三椏・楮・油菜・甘蔗・蓼・藍・薄荷・除蟲菊など種類が多い。之を嗜好料類・纖維料類・油蠟料類・糖料類・染料類・藥料類などに分ける。工藝作物は風土を選ぶことが多く、又その栽培には特殊の技術を要するのが常で、多くは特産地がある。

第五十課 土壤の水

土壤の水は雨・雪・地下水などに由來する。土壤は保水力と毛管力とを有する。保水力は水を保持して其の滲透し去るを防ぎ、毛管力は地下水を引き上げて

之を表土に供給する。

土壤には又蒸發性と透水性とがあつて、過量の水は自ら除かれるが、久しく雨雪なく地下水もまた低い場合には、土壤中に水の不足を來すことがある。

是等の作用が宜しきを得ることは作物の生育上大切なことである。

第五十一課 土壤の溫度

土壤の溫度は主として太陽熱に基づくものである。而して其の溫度は季節晝夜によつて異なるばかりでなく、又土壤の種類、水分の多少、色の濃淡、被覆物の有無、傾斜の方向などによつて差がある。

第五十二課 土壤の過濕

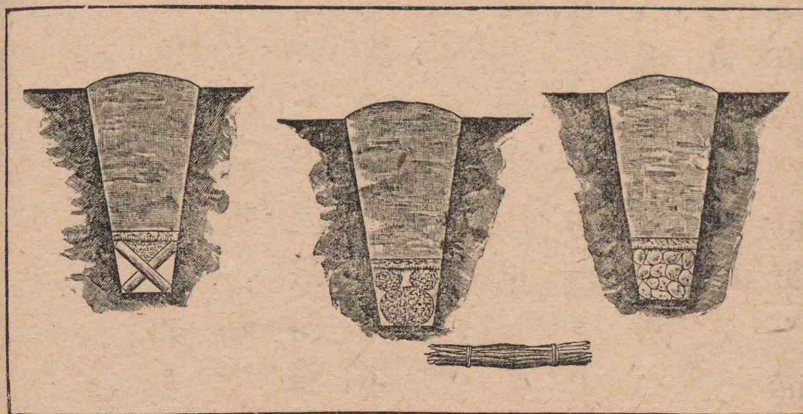
土壤が過濕であると溫度低く、ために作物の生育が不良である。又土壤中に空氣の缺乏を來して作物の根はその呼吸を妨げられ、土壤中の養分は分解が遅れ、又往々有害なる物質を生成する虞もある。

第五十三課 排水の方法

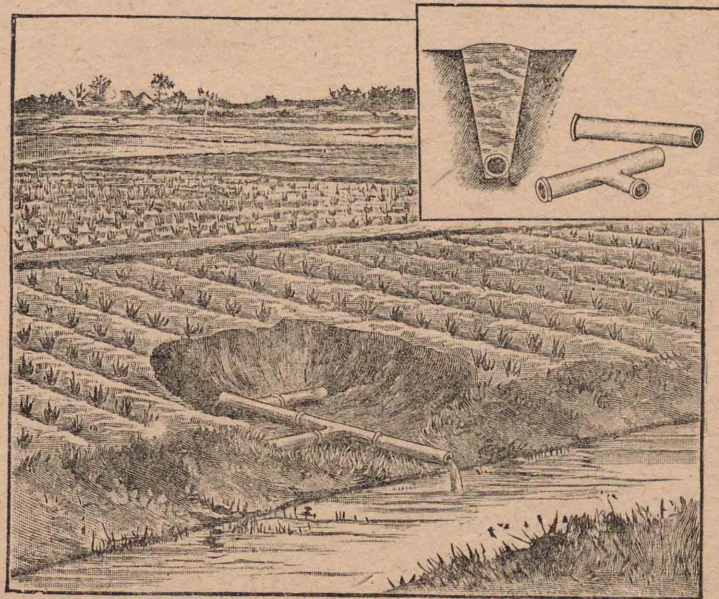
排水には明渠排水法と暗渠排水法とがある。明渠は地上に現れた溝渠であるが、暗渠は地中に礫いし・鹿か・丸太・竹束・土管などを埋めて作ったものである。

暗渠は明渠に比し排水量が少く、之を設けるに勞費が多いけれども、地積を損することがなく、又土を流出させる虞も少い。故に耕地内には暗渠を用ひ、明渠は耕地外に設け、悪水を集めて河川に通ずる場合

石礫竹木などを埋めてつた暗渠



土管暗渠



に多く用ひられる。

第五十四課 森林の効用

森林には左の如き効用がある。

- 一、木材・薪炭を産する。
- 二、パルプ・樟腦・樹脂などの製造原料を産し、又鳥獸・草類などの副産物を生ずる。
- 三、水源を涵養する。
- 四、土砂を扞止し又其の飛來を防ぐ。
- 五、洪水を防禦する。
- 六、風害・雪害を防ぐ。
- 七、氣候を和げる。
- 八、魚族の群集を促す。

九、風致を美にする。
森林はかくの如く効用の多いものであるから、力めてこれを保護し濫伐を禁じなければならぬ。

第五十五課 林樹の種類

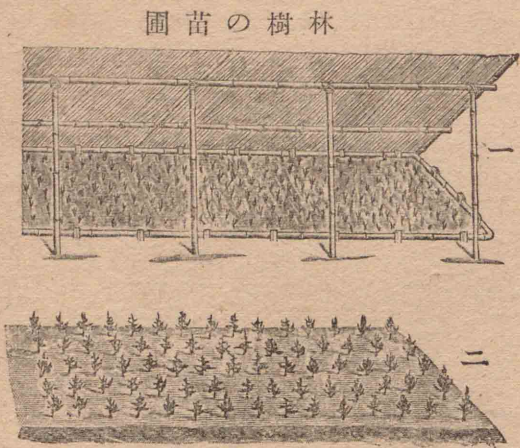
林樹のうち杉・扁柏・松などは針葉樹であつて用材に適し、松はまた薪炭にも用ひられる。櫟・樟・榿などは用材に適し、櫟・榿などは主として薪炭用に供せられ、何れも潤葉樹に屬する。

林樹はまた陰樹と陽樹とに分ける。扁柏・羅漢柏・花柏などは陰樹で、赤松・落葉松・榿・杉などは陽樹に屬し、榆・赤楊樹などは其の中間にある。

第五十六課 造林

造林には天然造林と人工造林とがある。天然造林とは、樹木の種子又は切株から自然に萌芽したものを森林となす法で、天然下種造林と萌芽造林との二

一、發芽後日除を施したる狀
二、二年目床替したる狀



圃苗の樹林

種がある。人工造林とは人工によつて苗を植ゑ、又は山地に播種するなどの方法によつて造林するものである。

人工造林と、天然造林とは各得失があるから、土地の状況、林樹の種類、造林の目的などによつて何れが適當なものを選ばねばならぬ。

人工造林のうち、普通に行はれるのは植樹造林である。之を行ふには、苗圃に種子を播き、發芽した後は適宜に補肥・除草・日覆・霜除などをなして苗を仕立て、一・二回床替をなし、適當の大きさになつた時山地に植付けける。植付は通常春秋の二季に行ふ。下草刈・枝打間伐などは植付後の大切な作業である。

第五十七課 桃

桃の品種では橘早生・傳十郎・離核・水蜜・早生水蜜・白桃などが有名である。溫暖な氣候を好み、排水のよい砂質の土壤に適する。

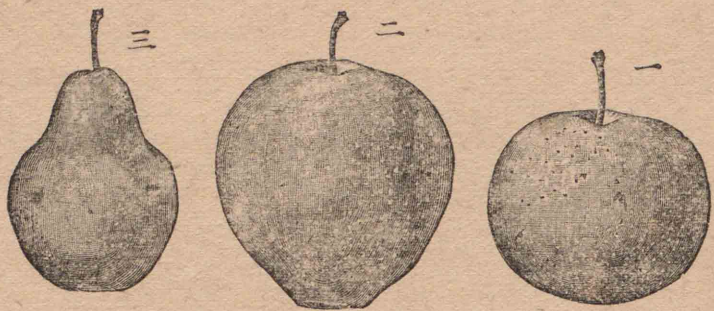
桃は接木によつて繁殖し、砧木には實生桃・李・杏などをを用ひる。樹を盃狀形に仕立て、適當に枝の剪込を

なして、結實を促すと共に枝の高く伸びるのを防ぐ。又適宜に摘果を行ひ、残した果實には袋掛をする。肥料は多過ぎないやうにするがよい。

第五十八課 梨及び苹果

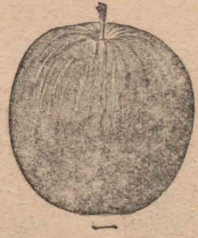
梨の品種では眞鍮・長十郎・二十世紀・早生赤・晚三吉・今村秋などが主なものである。梨は稍、冷涼な氣候を好み、濕地に耐へるが、排水の佳良な砂壤土に適する。接木によつて繁殖し、多くは棚

梨の品種



一、長十郎 二、晚三吉 三、西洋梨

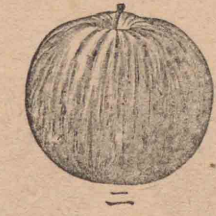
種品の果萃



一、紅玉
二、國光

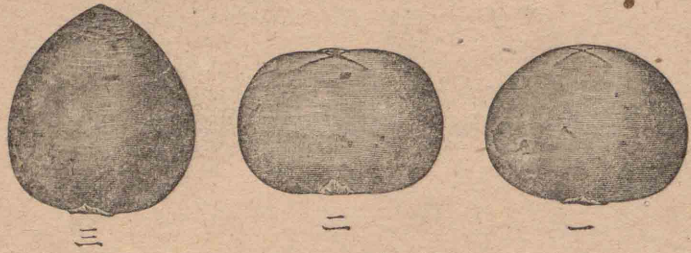
作となし適當に枝を剪込み、又果實に袋掛をなして蟲害を防ぐ。萃果は寒地に適し、通常自然形となし、其の手入など略、梨に準ずる。

第五十九課 柿



柿の品種では甘柿の富有、次郎、花御所、伽羅、禪寺丸、澁柿の蜂屋、富士、西條、衣紋、會津身不知などが主なものである。溫暖な氣候を好み、土地を選ぶことが少い。柿は接木によつて繁殖し、居接によるのが常である。隔年結果をなし、又天候、肥料、病蟲害等の關係によつて落果し易いから、之を防ぐことが肝要である。

種品の柿



一、富有 二、次郎
三、富士

甘柿は甘味が出たならば收め、澁柿は適度に熟した時に收めて醃柿、乾柿などに製する。澁柿からは又柿澁を製することもある。

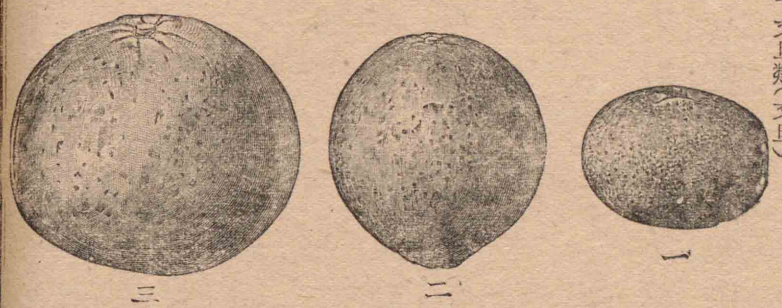
第六十課 柑橘

柑橘は蜜柑類、甜橙類、夏橙類、文旦類、金橘類、柚類などに大別し、各品種が多い。暖地を好み、砂礫に富む壤土に適し、南又は東南に傾斜せる地に良品を産する。

柑橘は接木によつて繁殖し、其の砧木には通常枳殻を用ひる。多量の

一、蜜柑類(温州)
二、甜橙類(ネーブル、オレンジ)
三、文旦類(文旦)

種品の橘柑



肥料を與へて栽培し、樹形は自然形であるが、徒長枝は適宜剪込を行ふ。幼木には防寒法を施すを常とする。病害の主なるものは瘡痂病で、害蟲のうち最も普通なのは介殼蟲である。

第六十一課 果樹

果樹には種類が多く、梨・苹果・柑橘・柿・梅・桃・葡萄・枇杷・櫻桃・栗などはその主なものである。果實は生で食べる外、乾果・砂糖漬・塩漬・罐詰などとなし、又酒・ジャムなどを製する。

果樹は傾斜地・砂礫地・瘠地などにも栽培せられるから、空地の利用に適し、又その手入は冬季の農閑期に行ふものが多く、勞力利用の効が少くない。よつてその栽培は農家の副業に適する。

果樹は植付けてから收穫までに年數を要するところが多く、又更新が容易でないから、よく土地・氣候及び需要の關係などを考へ、適當な種類及び品種を選択して栽培することが肝要である。

第六十二課 果樹の施肥

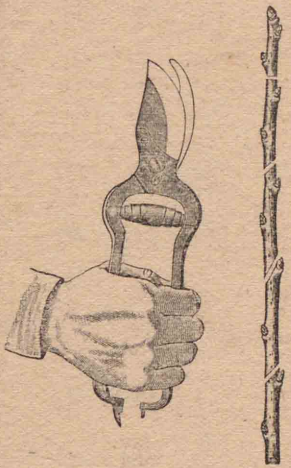
果樹には冬季に堆肥・下肥・油粕類・米糠・過燐酸石灰・草木灰などを基肥として施し、春夏の候に追肥として下肥などのやうな速効の肥料を施すのが常である。

る。
果樹の施肥は、成木には成長と結實との權衡を得るやう特に注意せねばならぬ。

第六十三課 果樹の剪定

果樹には通常剪定を行ふ。剪定のうち最も主なるものは剪枝で、之を行ふには葉芽の上で斜に剪るを常とする。

剪枝



剪枝の外、剪定には摘心・摘芽・捻曲・目傷・剝皮・摘果・剪根などの諸法がある。剪定は之を行ふ季節によつて、冬季剪定と夏季剪定とに

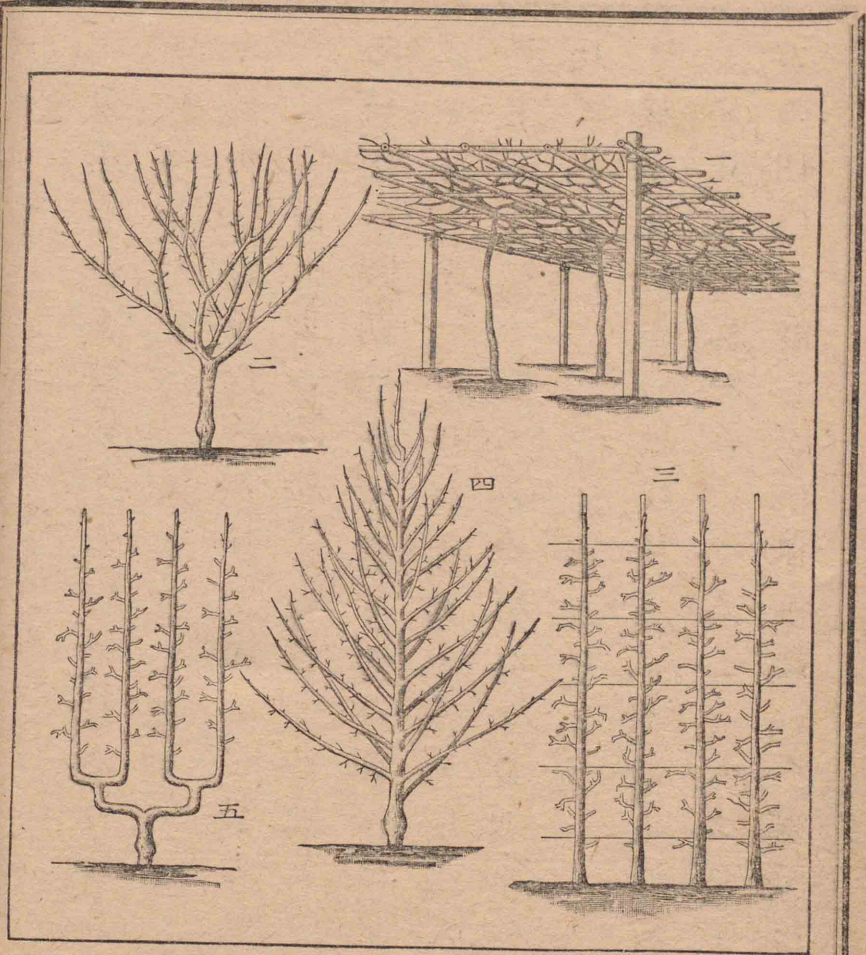
區別する。

剪定は、幼木では主として樹形を整へるを目的とし、成木では結果枝を適當に發育せしめるのを主たる目的とする。

第六十四課 果樹の整枝

果樹は其の幹枝を剪り、或は曲げなどして整枝を行ふ。果樹の整枝には自然形・棚作・盃狀形・圓錐形・垣作などがある。果樹の種類、氣候、土地などによつて適當なものを選ぶことが肝要である。

整枝を巧みに行へば良い果實を多く結び、果實の採收、病蟲害の防除、剪定などの作業に便利なばかりでなく、庭園などの美觀を増すことも出来る。



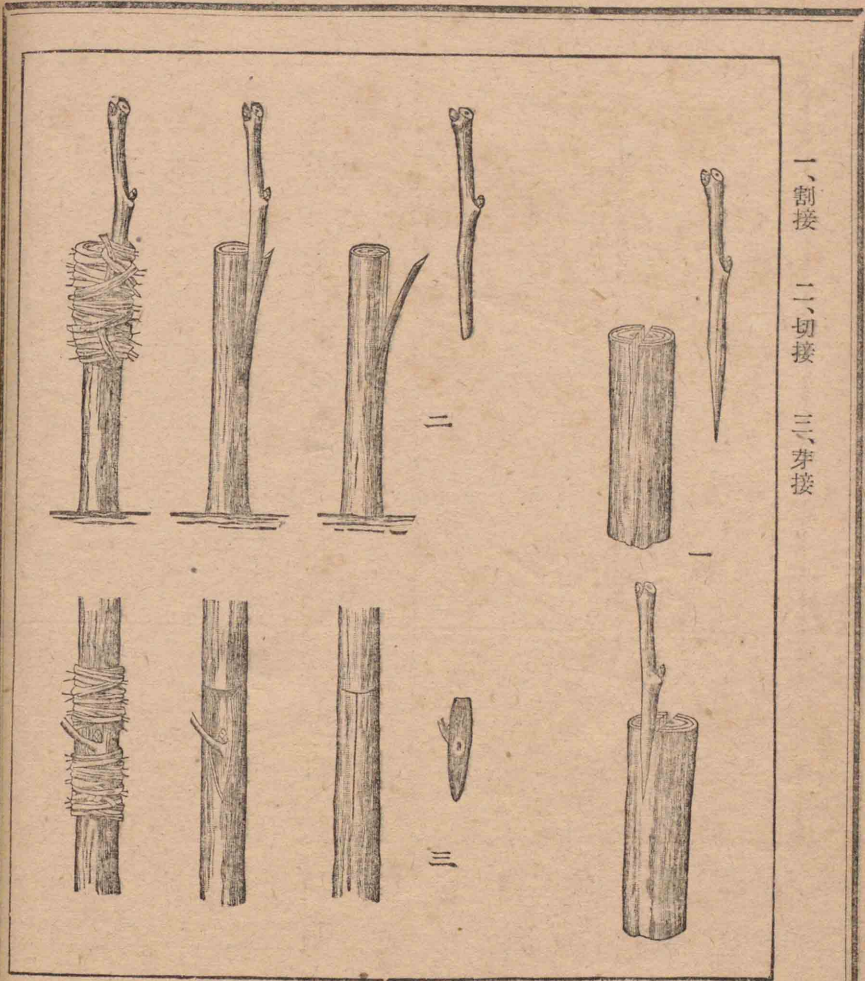
一、棚作
 二、盃形状
 三、垣作(コルドン)
 四、圓錐形
 五、垣作(カンデラブル)

第六十五課 接木及び挿木

果樹などを繁殖するには、接木・挿木などによることが多い。

接木には枝接と芽接とがあり、枝接には切接・割接など種類が多いけれども、最も普通なのは切接である。枝接の時期は春の発芽前で、芽接は夏秋の間に行ふものが多い。芽接は腋芽を接穂として用ひるもので、其の法にも種々あるが、最も普通なのは丁字形芽接である。

接木を行ふには、接穂と砧木との形成層を密接せしめて動かぬやうにすることが大切であるから、雙方の切口を滑らかに削り、接いだ部分は藁などで程



一、割接 二、切接 三、芽接

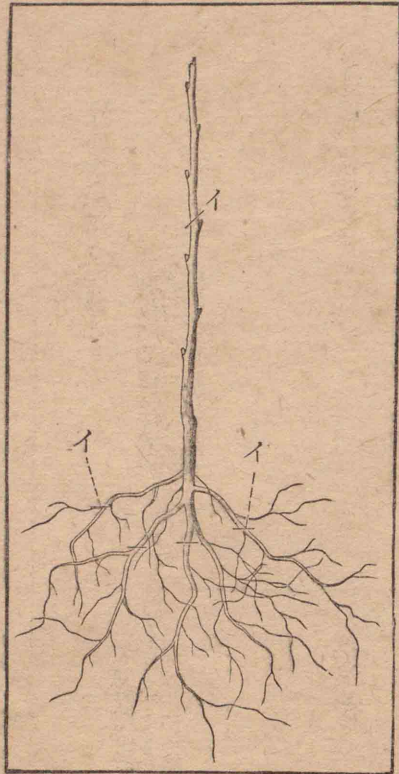
よく縛つて置くことが肝要である。挿木を行ふには春發芽前に前年生のよく充實した枝を、二三節又はそれ

以上の長さに切り、其の下部を土中に埋めて置くのが常である。かくして土地の乾きすぎぬやうにして根を發生させる。

第六十六課 果樹の移植

果樹の苗を移植するには、早春又は晩秋の頃、根と

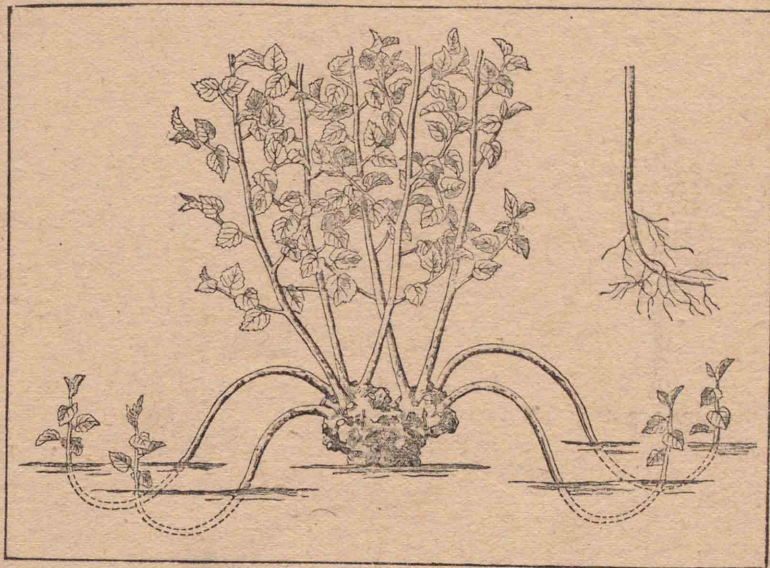
イ、剪るべき處



幹とを程よく剪定し、かねて掘つて置いた穴又は溝に植付ける。此の際には根に土をよく密着させるやうにせねば

定剪の木苗

傘 取



ならぬ。

移植に春又は秋の季節を選ぶのは、果樹の成長が休止してゐるので、根を傷けても害が少いからである。

第六十七課 桑樹の栽培

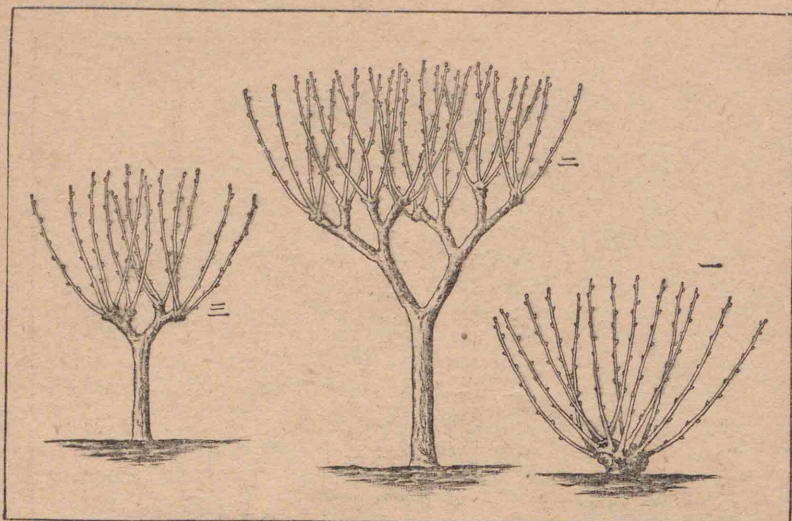
桑には品種が多く、早生では市平・多胡早生、中生では魯桑・赤木・改良鼠返、晩生では十文字・鼠返

などが有名である。

桑を繁殖させるには實播・接木・取木・挿木などの諸法によるが、實播は主に接木の砧木を作るに用ひられる。接木及び取木は最も普通に行はれる方法で、取木には盛取・傘取・丁字取などの別がある。

桑は畑に仕立てて、桑園とするのが普通である。其の仕立法に根刈・中刈・高刈

一、根刈 二、高刈 三、中刈

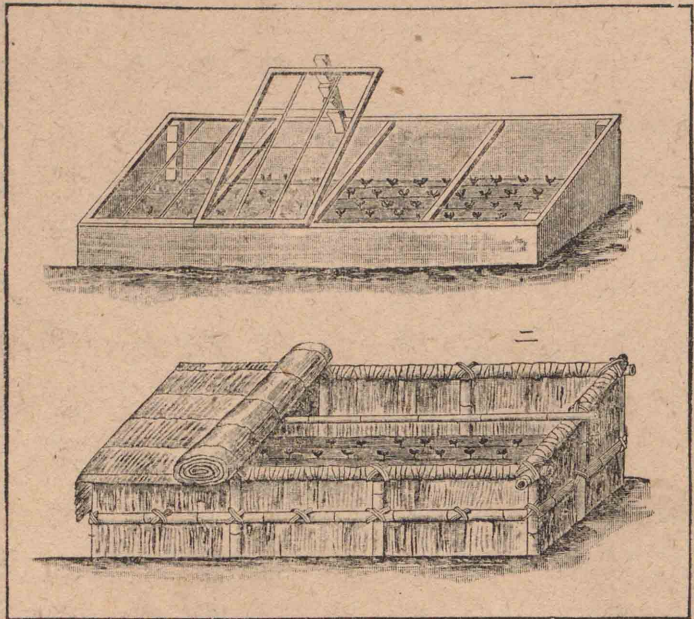


立通の諸法があつて、それによつて得失がある。
 桑の肥料は、春發芽前に芽出肥として、下肥などの如き速効肥料を與へ、夏刈取後に下肥・大豆粕・綠肥などを與へ、又冬季には堆肥其の他の遅効肥料を施す。中耕は桑樹の栽培上大切な作業で數回之を行ふ。

第六十八課 苗床

苗床には冷床と温床との別がある。

冷床は葱・甘藍などの苗を仕立てるに用ひる。床地の區劃は長さは適宜であるが幅を約百二十センチメートルとなし、淺く耕し、丁寧に整地せねばならぬ。温床は茄・胡瓜などの苗を仕立てるに用ひられ、木框・藁圍等の中に馬糞・藁落葉・塵芥・米糠等を踏込む。而



一、低設温床

二、高設温床

して其の上に肥土を置き、更に硝子障子・油紙障子又は寒冷紗障子などを以て覆ひ、夜間及び雨天には菰などで覆ふ。温床は主として早春に苗を早く作り出す爲に用ひられる。

苗床では適當な温度及び湿度を保たせることにつとめ、空氣の流通、日光の照射などに注意

し、苗の徒長を防ぎ、之を健全に成長させることが肝要である。

第六十九課 促成栽培

促成栽培は胡瓜・茄・菜豆・苺などに應用し、溫床又は溫室で行ふ。管理の方法は溫床で苗を育てる場合に準ずればよいが、數回の移植を必要とし、又何れも溫暖の候に開花結實するものを、嚴寒の季節に栽培するのであるから、特に溫度の保持に注意し、又日光の照射を良好にすることが肝要である。促成栽培には早生の矮生種を選ばねばならぬ。

第七十課 霜害

春季植物の芽の萌え出る頃は、氣候の變り易い時

期であつて、往々晩霜の害を受けることがある。桑・茶・果樹及び畑地にある蔬菜の苗などは最も之を恐れる。

霜の害は低溫に基づくものであるから、之を防ぐには煙煙によつて溫度の下るのを防ぎ、又狹い區域では霜覆を施すがよい。

第七十一課 農家の心得

農業に従事するものは、よく勤勉しよく儉約し、且學理の研究につとめて、之を實地に應用することに心掛けねばならぬ。かやうにすれば立派な農業家となり、收益を増加し、家は富み榮え、國の爲にも盡くすことが出来る。

小學農業書 男子用 卷一 終

昭和五年四月九日印刷
昭和五年四月十二日發行
昭和十五年四月十八日訂正發行
昭和十六年四月廿五日翻刻印刷
昭和十六年五月三十一日翻刻發行

小學農業書男子用卷一 17

定價金貳拾貳錢

著作權所有 文部省

翻刻發行者 大日本圖書株式會社

代表者 杉山常次郎

印刷者 青木弘

印刷所 大日本印刷株式會社



昭和十五年四月十五日 文部省檢査濟

發行所 大日本圖書株式會社

高
一
隆
井
健
吾